共立女子大学総合文化研究所紀要　第21号　(2015)

名物裂の概念の成立と受容の実態

長崎　巌

はじめに

昨今，海外諸国から日本の染織のユニークさが指摘され，これまでになく大きな関心を持って見られている。江戸時代の着物や能装束をはじめとする服飾関連の展覧会が欧米諸国で開催されることも多くなってきた。我々日本人自身もまた，こうした状況の中で，日本の染織を日本固有の文化的産物と捉え，ようやくその価値を再認識しつつあるといえよう。

しかし日本の染織は，独自に発展してきたものではなく，時に海外の染織の影響を受けながら，それらを自らの血肉にして多様な発展を遂げてきた。本研究は，14世紀から17世紀にかけて舶載染織品がどのような経緯を経て日本の人々に受け入れられ，16世紀から19世紀にかけての日本の染織品にどのような影響を与えたのかを解明しようとしたものである。

「舶載染織品」というキーワードを意識しながら改めて日本の染織の歴史を振り返ってみると，日本の染織の歴史の中に，大規模な海外染織品の流入期が3度あったことがわかる。その時期はほぼ600～700年の間隔で現れている。

第1回目は飛鳥・奈良時代，中国隋・唐の文化が急速に流れ込んだ時期である。法隆寺と東大寺に代表される大寺院に伝来した7～8世紀の染織品の中には多くの中国染織品，あるいは朝鮮や西アジアもしくは南方からもたらされたと考えられる染織品が含まれている。綾や錦などの絹織物ばかりでなく，獣毛を用いたフェルトなども見られ，刺繍や絣などの技法も使用されている。

主に皇室及び貴族階級によって建立，保護されていた寺院にこうした舶載染織品のほとんどは伝来しており，これらはその希少性から，使用される用途や部位に著しい特徴が認められる。

例えば東大寺においては，大仏開眼会と聖武天皇一周忌の際の大仏殿内の装飾品や光明皇后によって東大寺に寄進された聖武天皇の遺品に用いられていることなどである。また，法隆寺で僧侶の灌頂に用いられた幡や，内陣の天蓋に掛けられた幡では，もっとも重要と考えられた最上部の一坪目のみに舶載裂が用いられている[1]。これらは，中国や朝鮮，西域の遺跡から出土した染織品との類似性や文献の記述から，海外からもたらされたことが確認できるものである。

飛鳥・奈良時代，上流階層においては，服飾に関しても他の分野同様，大陸（中国）文化の様式をほぼ忠実に受け入れたが，染織技法や意匠においても同じ状況であったと推測される。舶載の染織品の影響を強く受けた日本の染織は，時間をほとんどおかずに舶載裂を模倣したと考えられている。

しかし平安時代になると，染織においても技術や意匠の和様化が見られるようになる。奈良時代

に見られた外国染織の影響はほとんど姿を消し，それとはわからないほど変容する。

一般に文化の「国風化」が平安時代の文化的特徴とされるが，実際には，上流階層にあっては奈良時代，弥生時代以来醸成されつつあった日本独自の生活様式が，遣隋使をきっかけとする全面的な中国文化受容によって，一時的に中国式のそれにとってかわられたと解釈される。平安時代の貴族階級の服装形式も，飛鳥・奈良時代に中国風衣服形式によって覆われていたものが，本来の日本的なものへと回帰したと考えられる。平安時代には奈良時代に較べて配色は抑えられたものに変化しており，服装形式と同様，日本人本来の嗜好や美意識が復活してきたと考えられる。

第2回目の外国染織の大規模な流入は，14～17世紀頃にかけて起こり，本研究で対象としているのは，この時期の舶載染織品である。

室町時代から江戸時代初期に至るこの時期，中国では元・明時代にあたり，絹織物を中心に第1期の舶載染織品流入期とは異なった内容の染織品が日本にもたらされた。金襴・緞子はその代表的なものである。

またこの時期にはインドやインドネシア等の東南アジア諸国から，間道や更紗といった木綿製品，ヨーロッパから南蛮貿易を通じて羅紗を代表とする羊毛製品がもたらされた。

これら当期の舶載染識品は，その種類と数において第1期に流入したそれよりも遥かに多く，またこれらがもたらされた期間も，第1回目より長い。飛鳥・奈良時代においては，舶載染識品が皇族やこれに近いごく一部の人々や寺院でのみ用いられたのに対し，この時代の舶載染識品は，社会のかなり広い階層に渡って普及し，様々な人々によって様々な目的や用途に用いられた。

特に室町時代から桃山時代にかけては，上杉謙信・織田信長・豊臣秀吉・徳川家康などの戦国大名が用いた胴服や陣羽織，江戸時代においては陣羽織に多くこれらが用いられた。その具体的内容については，平成23年度総合文化研究所研究助成「近世戦衣の素材・技法・意匠における外国染織の影響に関する研究」においてすでに明らかにし，その成果を平成24年度総合文化研究所紀要に「近世の戦衣の特徴とその文化史的意味　－外国染織の影響を中心に－」として発表している。

この時期の舶載染織品の受容上の特徴は，禅宗寺院に伝来している祖師所用の袈裟などをのぞけば，日本にもたらされた舶載染織品の多くが，出来上がった製品ではなく，反物の形で商業的に輸入された生地であったということである[2)]。

「名物裂」と呼ばれて茶道の世界で珍重されている染織品は，その中心をなすものであって，当初は「茶」という限られた目的のためだけではなく，将軍や大名達の衣服を飾ったり，舞楽や能の装束に用いられたり，あるいは寺院の帳や壇掛けなどの用途にも用いられた。また江戸時代に入ってからは，町人たちが日常の衣服の一部にこれを用いることもあった。

高僧の袈裟や寺院の帳に用いられているのと同じ裂が，茶入れの仕覆や掛幅の表具に用いられたり，舞楽装束や能装束に用いられたのと同じ裂が表具の裂地に見られたり，さらには更紗や間道が茶道具の袋や風呂敷に使われるだけでなく，小袖や布団地とされるなど，当期の外来染織品の用途は多様である。その具体的内容と特徴については本研究の中核をなす部分であるため，後に項を改

めて述べる。

前記，外国染織の第2次流入期から長い鎖国に時期を挟み，次に外国染織品が大量に流入した時期は，いうまでもなく明治時代である。この時代の特徴は，欧米から流入した染織品の影響によって，その後の日本の染織品が，技術においても意匠においても大きくに変化してしまったことである。和服でさえ，意匠に江戸時代以来の伝統的な棲模様の形式が継承された以外は，地色や加飾技法，模様のモチーフには，西洋の染織の影響が強く表れる。欧米諸国から輸入された染織品が，洋装そのものとしてや，あるいは洋風の生活に必要な染織品として用いられ，それは現代にまで及んでいる。

第2回目にあたる，14～17世紀頃にわが国にもたらされた染織品の中核をなす名物裂がどのようなものであったか，本研究では，まずその種類と用途，及び生産地などを分類・整理し，その後その内容につき分析した。

その際，そもそも一般に「名物裂」と呼ばれている染織品に対する認識が，必ずしも確立していない現状に鑑み，これを整理した。その結果，名物裂の概念は，本研究で取り上げている舶載染織品の概念とも関連して，一つではなくいくつかの説が併存していることがわかった。以下にそれらの概要を述べるが，さらにこれに関連して名物裂の概念が出来上がっていく過程も把握しておく必要があろう。現在名物裂に対する認識が一つでないのは，この過程と深く関係しているからである。

名物裂という概念

名物裂の概念としてとして最も一般的に普及しているのは，(1) 海外から何らかの経緯で日本にもたらされた舶載染織品で，しかも舶載時期がおおむね14～17世紀頃であること，及びそれらが主に茶道具の袋や包みや掛幅の表具など，茶道に用いられたこと，を名物裂の条件としてあげるもの。研究者においてはこれを名物裂と規定する場合が多いが，実際には名物裂を更に限定して規定する場合や，逆にこれよりも緩やかに規定する場合がある。

前者では，(2) 以上の条件を満たした上に，さらに『久好茶会記』(慶長14年＜1609＞の条) や『久重茶会記』(寛永6年＜1629＞の条) などの茶会記や『鴻池家道具帳』(元禄4年＜1691＞) などの茶道書に，固有の名称として裂の名が記されている物だけを名物裂と規定するものや，さらに (3) 松平不昧の『古今名物類聚』(寛政3年＜1791＞～9年) の「名物切之部」や他書において，「名物」あるいは「名物裂」として集録されているもののみを名物裂と規定するものなどがある。

このグループの中には，まれにではあるが，(4) 大名物・名物・中興名物のそれぞれの茶入れに付属している物だけを名物裂とする考え方もある。

一方，後者では，(5) 茶道に関連するものに限らず，14～17世紀頃わが国にもたらされた外国染織品を広く名物裂と呼ぶ場合や，さらにこれに加えて，(6) 流入した時期をこの間に限らず，上限を7～8世紀まで引き上げたり，下限を19世紀まで引き下げたりする場合もある。

そして，(7) 極端な場合には茶道に用いられた裂地であれば，必ずしも舶来裂でなくとも名物裂と呼ぶという場合も現れる。もちろんこの場合でも，それぞれの裂は舶来裂を模織したもの（いわゆる「本歌写し」）や，舶来裂と同様の技法を用いてこれに似た模様を表したものであることが多い。

名物裂の概念の出現と定着

以上のように，名物裂の定義は様々であり，必ずしも一つに決めることができないのが実状であるが，ここでは一応，はじめに記した最も基本となる要件を満たすものを中心に，名物裂の概念の出現と定着の過程を見てみよう。

茶道が確立し，これに用いる道具が鑑賞の対象となるのは南北朝頃であるが，この頃はまだ人々の関心は絵そのものや茶碗・茶入そのものにあって，これらを装飾し包む裂類にはほとんど関心が払われていなかった。従って絵画・道具類についての記載に裂の記述が付帯することはなかったが，東京国立博物館本『君台観左右帳記』（大永三年宗珠の奥書あり）の「唐物之名」の項の最後に，金襴・金紗・紋紗・金羅・印金・繻子・段子・綾羅・錦繍などの名が列挙されており，これらの裂類が舶来の染織品として認識されていたことが窺われる。

桃山時代から江戸時代初期の茶会記にも，例えば『宗達茶湯日記』（天文17年＜1548＞～永禄9年＜1566＞）や『宗久茶湯日記』（永禄9年～天正13年＜1585＞）などには，袋の説明に金襴や緞子・間道などの名が見られるほか，『久政茶会記』（天文11年＜1542＞～天正16年＜1588＞）には，金襴に鳥襷・唐草・唐花・格子・桝龍といった具体的な模様の説明が見られる。

しかし前出の『久好茶会記』になると，慶長14年（1609）12月12日の条に「珠光緞子」の名が見え，また『久重茶会記』では，寛永6年（1629）6月14日の条に「袋モヨキシュス（萌黄繻子）地文ツルノ（鶴の）丸金森雲州メサレ候御袋ト也」，正保5年（1648）2月8日の条に「袋　舟越三郎四郎コノミ」とあるように，単に裂の種類や模様だけでなく，特定の裂についてその裂の由来を記したものが現れる。

こうして裂そのものへの関心が次第に高まっていき，元禄頃には現在われわれが名物裂と呼んでいる裂類が，一つのジャンルあるいはグループとして認識され，それぞれに固有の名称を付ける傾向が強まっていったと考えられる。元禄4年（1691）の『鴻池家道具帳』には，大燈袈裟切（大燈金襴），嵯峨帳切（嵯峨裂・大内桐金襴），安楽庵切（安楽庵金襴），白極（白極緞子），ささつる（笹蔓緞子），有楽（有楽緞子）などの名が見えるからである。

また元禄7年（1693）に刊行された『万宝全書』中の1巻「古今和漢諸道具見知鈔」には，「古今時代端（裂）之色々」という項があり，まず「時代裂」を定義して「東山殿時代よりひさしきものをさす渡りの古き物也」とし，そののち「大内桐　袋端　名物金襴桐小文様アリ，口伝」「白極切　袋端　名物の唐段子也」というようにと，60種あまりの裂を列挙している。ここにおいては，後に名物裂として共通認識される各裂が「時代裂」と呼ばれるとともに，これらの裂に対して「名物」という言葉の使用も始まっている。

そしてこれらの裂類をついに「名物裂」の名のもとに集大成したのが，松平不昧の『古今名物類聚』

(寛政3年＜1791＞～9年)の「名物切之部」2巻であった。そこには166点,106種の裂が収録され,うち金襴は79点,49種,緞子は38点,29種,間道は23点14種,その他は26点,14種を占める。

これらは,松平不昧が個人的に選定したというよりも,むしろ寛政初年頃までにすでに名物裂として広く認識されていた裂を整理したものといえよう。本書以降に刊行された名物裂関係の書がいずれもこれに準拠していることが,それを暗示している。

文化元年(1804)に刊行された『和漢錦繡一覧』には,名物裂342種が収載されており,詳しい名称と年代考証がなされている。以後現代に至るまで,これら江戸時代の文献に記載された裂類を名物裂と呼んだり,これらを中心に,これに類似したものや同時期の舶載染織品を加えて名物裂と呼んだりすることが行われているのである。

名物裂の普及

以上のように名物裂の概念は多様であるが,本研究では最初に示した最も一般的な概念にしたがって「名物裂」という言葉を使うことにする。染織品は他の文化財に比して歴史的現存率が低いため,現存作品だけを調査しても当時の存在実態を必ずしも適正に把握できるとは限らない。むしろ当時の文献や絵画に取り上げられている頻度や,掲載数などを調べることが,当時の舶載染織品の実態を把握する近道であると考えられる。

そうした方法により,名物裂を含む,14～17世紀頃にわが国に舶載された染織品を調査・分類した結果,まずそれらの多くが中国からもたらされたものであったことが明らかとなった。このうち,前述の定義による名物裂も,その大部分が中国からもたらされたものである。

名物裂の用途は,いうまでもなく茶道における諸道具の袋や包み,あるいは掛幅の表装などであり,また茶道に関わらないものでは,寺院の用品,例えば幡をはじめとする荘厳具や,褥といった調度品,袈裟などの僧衣など,あるいは神社に奉納された神服や手箱の内貼など,さらに舞楽装束の裲襠や袴,能装束の狩衣・法被・側次などにも,中国からもたらされた金襴・銀襴・緞子・黄緞などが見られる。

また中国以外の国からもたらされた染織品,例えばインドやインドネシアの更紗,インドやベトナムの木綿縞,インドもしくはヨーロッパ製のモールなども,茶道具の袋以外に,町人男女の着物や帯,武家の陣羽織,あるいは布団・風呂敷,そして煙草入れや煙管の袋・紙入れなどの日常生活品にも用いられている。

室町時代から江戸時代前期にかけては,残念ながらその実態は,前項の「名物裂の概念の出現と定着」において紹介した文献とわずかな現存資料から推し量るほかはない。これに対して江戸時代中期以降の名物裂については,多く残っている肉筆浮世絵と浮世絵版画によりその様子を窺うことができる。

本研究では,表1に示す図録類を用いて浮世絵約1000点ほどを調査した結果,表2に示すとおり,「名物裂」として認識されている裂,及び模様からそれに類するものと判断できる裂が,337点の作品に描かれていることが明らかになった。もとより数万点現存する日本及び世界の浮世絵のすべ

てを調べたわけではないが，江戸時代当時における名物裂の普及の実態を把握することはできる。

浮世絵に描かれている名物裂について，その種別と特徴，裂の具体的内容について述べる前に，まず名物裂の染織品としての内容について述べておく必要がある。また浮世絵に描かれた名物裂が当時における実際の使用状況をどれほど正しく反映しているかも検証しておく必要がある。これについてはさらにその次の項で検討する。

名物裂の種類

金襴

金糸のみで模様を織り表した織物で，一般に平金糸を用いたものいう。平金糸は金箔を紙に貼って金箔紙を作り，これを細く簾状に裁断しておいたものを，織るときに1本ずつちぎって糸状にし，竹へらの一端に引っかけて上下に開口した経糸の間に織り込んでいく。

金襴は，中国では織金と呼ばれ，わが国へは南北朝時代に早くももたらされ，舞楽装束に仕立てられている。以後，室町時代からは，日明貿易の活発化とともに大量に輸入され，袈裟や掛幅の表具，茶入の袋など，幅広い用途に用いられた。

緞子

名物裂において，金襴とともに数が多いのは緞子である。金襴ほどの華やかさはないが，上品で渋みのある美しさは，特に茶人に愛され，主に茶入の袋に多用された。

地を経の5枚繻子，模様をその裏組織である緯の五枚繻子で織り出しているため，光線の当たり具合によって模様が静かに，しかしはっきりと浮かび上がる。先染した経糸と緯糸を用いて織った織物であり，両糸の色を変えることもあって，その場合には模様が更に一層鮮やかに浮かび上がる。

ただし名物裂で緞子と呼ぶものには，必ずしもこのような組織によらず，経･緯糸に異色を使い，地と模様を異組織で織りだしたものも広く含める傾向がある。

間道

間道は広東・漢東などとも記され，縞及び格子模様の織物をいう。絹製のものと木綿製のものがあり，前者は中国からもたらされ，後者は琉球貿易や南蛮貿易を通じてインドや東南アジアの諸国からもたらされた。

中国明代においては，雲南・四川・広東地方が縞織物の産地として知られており，これらの地方からは，通常の縞のほか，浮き糸を帯状に織り込んで紐のように見せるものや，金糸を織り込んで模様を表わすものなど，様々なバリーエーションが生み出されている。

一方，インドやインドネシア・ベトナム方面からは，地方ごとに縞の太さや配色に特徴のある木綿縞が多数もたらされた。中国の絹間道に茶人を暗示するような名称を持つものが多いのに対し，

木綿の間道には桟留縞（さんとめ・セントトーマス）・辨柄縞（べんがら・ベンガル）など産地名を名称としたものが多い。

更紗

名物裂では，近世初期以降にインドや東南アジアなどからもたらされた模様染を広く更紗と呼んでいる。佐羅紗・皿紗・佐羅佐の字をあてることもあり，その語源については，インド西岸の港スラートに由来するとも，ポルトガル語のSarassa・スペイン語のSarazaの音訳ともいわれる。また中国では，更紗に当たるものは印花布と呼ばれる。

英国商館員の書簡やオランダ商館の商業帳簿などによれば，更紗は，初めてわが国にもたらされた17世紀前半から，日本人の間で非常に人気があったらしい。古渡り更紗として知られる彦根藩井伊家伝来の更紗裂には，この時期のインド更紗が多数含まれている。

モール

莫臥爾・回々織・毛宇留などと書き，モールと読む。16世紀インドのムガール王朝時代に盛んに製織されたこの種の裂が，わが国にもたらされた際，「ムガール」が「モール」に転訛したといわれている。

絹糸の芯に平金糸または平銀糸をコイル状に巻き付けて作った撚金糸や撚銀糸を織り込んだ織物である。茶器の仕覆のほか，帯などにも用いられた。

模様は，横段を表したものや，横段の間に花文などの模様を配したものが多い。

錦

錦は，二色以上の経糸または緯糸の浮沈で模様を織り出した織物の総称で，その言葉の含む範囲はかなり広い。中国では漢代にすでに錦が織られ，わが国へは飛鳥・奈良時代に伝来し，技術もほぼ同時に移入されて，国産化も進んでいた。平安時代・鎌倉時代を通じて，技法・模様ともに和様化した錦が国内でも生産されていたが，室町時代を中心とする第2回目の本格的な中国文物の流入期にあたり，中国産の錦が再びもたらされることとなった。

当時中国からもたらされた錦は，国産のそれと全く趣を異にしており，それ故にこれが舶来品としてもてはやされたものと思われる。

印金

中国では銷金，日本では摺箔とも呼ばれる技法で，模様を切り透かした型紙を用いて糊あるいは膠などの接着剤を裂に塗り，その上に金箔を置く。乾いたのち余分な金箔を掃き落とすと金箔で模様が表される。

名物裂の印金には羅・紗・綾などの生地にこれを施したものが一般的で，摩擦に弱いため袋などに使われることは少なく，主に掛幅の表具などに用いられたが，袈裟に用いられた例もある。

その他の名物裂

これらのほか，二重織の一種である風通や紗地に金糸を織り込んだ竹屋町裂などがある。

風通は，表を構成する糸と裏を構成する糸が途中で交差し，それぞれの配色を逆にして表裏で同じ模様を表す織物である。表裏の糸が交差する部分以外では，表と裏がそれぞれ別に裂面を作るため，その間が袋状になり，風が通るためこの名があるといわれる。

また竹屋町裂は，元和年間，堺に来た中国人から技法を学んだ銭屋・松屋の両人が，京都竹屋町でこれを織り始めたことからこの名があるとされる。

浮世絵に見られる染織描写の正確性について

浮世絵における服飾描写は，それを子細に見ていくならば，それらが決して絵空事ではなく，驚くほど忠実に現実の衣服を描いていることがわかる。それは浮世絵に美人画（「美人画」とは，女性を描いた浮世絵一般をいう）という形が現われて以降特に著しいが，それ以前の風俗画（一般に「近世初期風俗画」と呼ばれている）においてもそうした傾向は十分に窺われる。風俗画における服飾描写へのこだわりは，おそらく風俗一般への関心の一部として生じたことであろうが，その関心はやがて一方向としては服飾へと絞り込まれていき，さらにファッションの正確な描写へと具体化されていったと考えられる。

浮世絵は，まさにこうした歴史的背景を持って生まれた絵画であり，肖像画などとは制作目的や受容者がかなり異なるとしても，絵画表現においては，本質的にニーズがあれば正確な服飾描写をなしうる可能性を内包していたといえる。

浮世絵には木版による浮世絵版画と肉筆による肉筆浮世絵があるが，肉筆浮世絵は前述の近世初期風俗画からの流れの中で成立してきたものと考えられており，浮世絵版画に先行するものである。従って浮世絵版画に見られる諸特徴は肉筆浮世絵から派生し，分化していったものと言えるであろう。そこで，まずは肉筆浮世絵を中心に，その服飾表現のありようを検証する必要があると考える。

服飾研究者の立場から見れば，江戸時代に描かれるようになった浮世絵の大部分は，(1) 同時代の人々の生活を主題としてとり上げ，(2) 主にその風俗をモチーフとしながら，(3) 制作に当たっては特に服飾描写に情熱を傾けている，という点に特徴が認められるように思われる。

中には，古典的画題を主題として用いながら，登場する人物の服飾を江戸時代当時の風俗に置き換えた作品なども見られるが，これらとて人物の服飾描写は非常な熱意をもって行われており，この点に関しては，江戸時代の生活事象をそのまま主題とする他の多くの肉筆浮世絵と変わるところはない。

従って浮世絵は，本質的に当時の風俗や服飾を研究するための手掛かりとなる可能性を含んでいるわけであるが，ここで絵画における現実描写の程度と実態に注目する必要が生じることになる。これは風俗画を他分野の研究に活用しようとする際，必ず考えなければならない問題である。すなわち，描写の現実性と絵空事の部分，ここでは服飾描写における現実性の度合いが，肉筆浮世絵や

浮世絵版画についても検討されなければならないということである。

この観点から浮世絵を見るとき，少なくとも服飾描写に関しては，肉筆浮世絵も浮世絵版画も，技法から来る表現の可能性に違いがあるとはいえ，当時の現実，すなわち実際の風俗や服飾を非常に忠実に写しており，特に美人画においては，その多くは，作品の描かれた年代の服飾の形式と流行をリアルタイムに反映しているといえる。絵画中の衣服の構成や着装法が当時の文学作品や服装指南書に記されているそれに忠実であるばかりでなく，個々の衣服に見られる模様や加飾技法の描写も，同時期の現存染織作品に見られるそれに忠実なのである。

また，寛文期以降の浮世絵においては，この時期から出版が始まった，着物雑誌的存在であり，実際の呉服注文に際してスタイル・ブックとしても用いられた小袖模様雛形本に収録されている小袖模様や注記されている加飾技法をほぼ忠実に描いていることが既に検証されている[3)]。

以上の検証結果から，浮世絵に描かれている名物裂を抽出することにより，当時名物裂が茶道以外の用途でどの程度受け入れられ，普及していたかを知ることができると考えられる。

浮世絵に見られる名物裂

富田金襴

丹地に力強い霊紫雲が連続的に表され，その間地には宝が散らされている。戦国時代の武将，富田左近將監（？～1599）が愛好した裂と伝えられるところからこの名があるが，その本歌ともいえるものとして，京都・慈済院に空谷明応（1328～1407）所用と伝えられる九条袈裟が残っている。

江戸時代の浮世絵に最も多く見られる金襴は，富田金襴である。帯に圧倒的に多く用いられているが，小袖にはあまり見られない。浮世絵においては，地色は様々に描かれており，主にその模様に関心がもたれていたことが分かる。紋織物であることや，袈裟にも用いられていたことから，柔軟性や華やかさを求められる小袖地には適切ではないが，帯には適していると考えられたのであろう。またこの金襴が圧倒的に多く描かれている理由は，江戸時代当時においては，金襴としては富田金襴が最もよく知られていたためと推測できる。

角倉金襴

濃い藍色地に金糸で花樹の下で振り返る兎を愛らしく表したこの金襴は，海外貿易と土木事業で名をなした桃山時代の商人，角倉了以が愛用したと伝えられるところからその名がある。

『松屋会記』の「久重茶会記」の寛永八年正月八日の条に「袋兎ノキレ，色クロモヨキ（黒萌黄）ノヤウ也」と記されている裂があり，これも角倉金襴同様，花兎模様を表した可能性が強い。

角倉金襴も浮世絵では帯地に用いられている場合が多いが，小袖や浴衣にも用いられている。愛らしい兎の姿が，模様としては女性の着物に適したのかもしれない。

金春金襴

白・萌黄・茶・金茶・浅葱・薄茶・紺を反復する縦縞地に，金糸で宝尽の丸文と種々の吉祥文を規則的に散らすこの裂が「金春金襴」と呼ばれるのは，金春太夫がこの裂を足利義政から拝領したと伝えられるためである。

縦縞に上文を金糸で表す金襴には，このほか金剛金襴（白・縹・薄茶・浅葱等の縦縞に金糸で折枝と宝尽文を表す）や四座金襴（濃淡の茶・藍・萌黄・黄等の縦縞に金糸で梅鉢文と花唐草文を表す）などがあるが，ともに能楽四座に因む名称が付けられている点が興味深い。

浮世絵では３点中２点が帯に用いられているが，これは，この裂が縦縞という帯に適した模様を表わしているためと考えられる。

嵯峨桐金襴

縹の五枚繻子地に，金糸で入子菱地紋と五七の桐紋を互の目に織り出した金襴。京都嵯峨の清涼寺釈迦堂の戸帳裂に用いられたという。類裂に，地紋のない「大内桐金襴」がある。『古今名物類聚』には「嵯峨切」として所載されている。

浮世絵では，いずれも帯に見られるが，この裂が富田金襴同様の背景を持つためと考えられる。

笹蔓緞子

経糸に萌黄，緯糸に金茶色の糸を用いて，細蔓に笹に似た葉と松毬風の実及び六弁の小花をつけた唐草文を織り表す。しっとりと落ちつきのある色合いの中に浮かび上がる模様は，繊細で上品さにあふれており，名物緞子の中でもこの裂がとりわけ愛された理由が窺われる。また『古今名物類聚』には，地色の異なるものなど９種類の図が収載されている。

浮世絵では，富田金襴・白極緞子と並んで多く見られるもので，ほとんどが帯地に用いられている。名物裂の緞子では最もよく知られたものであり，それゆえ当時も帯地に多用されたのであろう。

白極緞子

室町将軍足利義政（1436 － 90）に仕えた鼓打ちの名手「白極」が，義政から拝領した鼓の袋裂が本歌であるとされる。萌黄や縹地に分銅繋ぎに鳥文を表す。

白極緞子は，名物裂として伝来した裂の中では，最もその意匠が一般の衣服模様に大きな影響を与えたもののひとつで，江戸時代中期後半以降の浮世絵美人画には，白極緞子の模様を着物に表した町人女性がしばしば描かれている。帯地にも見られるが，小袖や間着，打掛や浴衣にも見られ，他の名物裂に比して圧倒的な出現頻度を誇る。しかし，現代における名物裂の有名度からすれば，比較的下位に属するこの緞子が何故このように人気があったのかは明らかではない。

雲珠緞子

名物裂の一。雲状の渦を織り出す。『古今名物類聚』所載。

浮世絵ではこの裂ももっぱら帯に用いられている。富田金襴と模様が近いためであろうか。

剣先緞子

萌黄色の経五枚繻子地に，剣先紋を織り出した緞子。剣先紋は，六角形（亀甲）を山形に三つ組み合わせたもので，仏像の毘沙門天像が着ている甲冑の模様の形に似ているため毘沙門亀甲とも呼ばれる。『古今名物類聚』所載。

この緞子も浮世絵では帯にのみ見られる。力強く，仏教にかかわる模様であることから，着物の模様には適さなかったのであろう。

荒磯緞子

表された魚は一般に鯉と解釈されているが，深みを帯びた地色と力強い魚の表現は，まさに磯に生息する魚を思わせる。流れの速さを感じさせるリズミカルな流水の曲線が，力強く身をたわめた魚の動きと調和して，模様にいきいきとした躍動感を与える。小柄な単位模様の反復によって構成されていながら，単調な印象を与えず，むしろ現実の水面を見ているような迫力を感じさせる。

この裂も模様が与える力強い印象からか，浮世絵では帯に用いられている。

遠州緞子

茶人としてはもちろん，作庭家としても知られる小堀遠江守政一（遠州）が所持した裂と伝えられることから，こう呼ばれる。

白と薄藍・藍の石畳の中に七宝文と花文を織り表した模様は単純で分かりやすく，それゆえ後世まで長く愛され，現在でも最も親しみ深い名物裂の一つとなっている。

石畳に花文や宝尽などを収めた模様は，明の万暦（1573～1619）頃盛んに行われたらしく，この裂もこれに近い頃の作と考えられる。

浮世絵では帯と着物にこの模様に用いられているが，現存する18世紀末の小袖にも遠州緞子の模様を表わした作例が見られる。白極緞子や剣先緞子に次いで多く用いられており，地質のしなやかさと吉祥模様を表わす意匠上の特徴がもてはやされたのであろう。

蜀江錦

龍や麒麟を配した花文と円文を，直接あるいは花文入りの方形を介して繋ぎ，雄渾な幾何学模様を構成している。

蜀江錦とは中国の蜀（四川省）の地から産する錦という意味で，事実，その技術の高さは定州の剋絲（綴織），蘇州の刺繍と並んで良く知られていた。蜀江錦はここに見られるような幾何学的な繋ぎ模様に特徴があり，わが国ではそのような模様を特に「蜀江模様」と呼んで，様々な染織意匠に用いた。

浮世絵に見られる錦としては，蜀江錦が圧倒的に多く見られる。帯地がほとんどであるが，小袖や夜着にもこの模様が見られ，帯地としては錦がそのまま使われ，小袖や夜着では吉祥の意味も含んでいるその模様が好まれたのであろう。その背景には，能において蜀江錦が「翁」の専用の装束に用いられていることがあると考えられる。

有栖川錦

有栖川の名は，これがもと有栖川の宮家に所蔵されていたことによるともいわれるが，実際には明かでない。

模様は一つではなく，蜀江模様のように六角形を繋いでその中に馬や鹿の模様を配したものと，大胆に簡略化された龍と雲を横段状に配したものがあり，ともに中国の染織品としてみてもなお異国的な趣の強い意匠となっている。

浮世絵では帯と小袖の袱に見られる。多くはないがそのユニークな意匠が珍重されたのであろう。

御朱印裂

桃山時代から江戸時代の御朱印船に明国から与えられた国璽の押してある裂，及びこれと類似する裂。種々あるが，白地雲龍文に金糸で福寿の文字を織り加えたものが代表的である。紋織物の種類としては錦に分類される。

浮世絵では，ほとんどが帯に見られるが，産着に見られる例が一件あり，雲龍という吉祥模様が表わされていることから，この用途に用いられたと推測される。

糸屋風通

京都の糸屋良亭が所持したことによりこの名がある。浅葱と白で網代模様を地文風に表した上に，金糸で繍い取り風に輪宝模様を織り加えたもので，すっきりとして落ちつきのある意匠が通常の金襴とは異なった趣を与える。その模様から糸屋輪宝とも呼ばれる。

輪宝模様は，これが仏教に由来する模様であるところから使用される場合が比較的限られており，一般には能装束の厚板の意匠とされることが多い。

浮世絵でも，その模様の特殊性から帯にしか用いられていない。

更紗

浮世絵においては，名物裂の種別の中では更紗が他を圧して多用されている。その理由は，名物裂のなかで唯一の染めものであり，視覚的に華やかであるとともに，エキゾティックな印象を与えるためと考えられる。

使用用途は，帯，小袖，間着・下着・打掛・羽織などの服飾品のほか，炬燵布団や風呂敷など多岐にわたる。江戸時代後期の書には，「更紗の下着」が町方に流行したことをうかがわせる記述が見られ，浮世絵における前記の動向を裏付けることができる。

縞（間道）

浮世絵には以上の名物裂のほか，名物裂として名称を付されていないが明らかに名物裂に分類される裂を小袖や帯に用いている様を描いた作品が少なからず見られる。表2でいえば,「三崩し」「宝尽」の模様を描いたものがそれである。また今回の調査では，名物裂としては「間道」と呼ばれる縦縞模様の着物や帯は，浮世絵の中に描かれていてもあえて集計に加えていない。縦縞の着物は，浮世絵にはあまりにも多く見られるからである。

江戸時代後期の町方のファッションを語るとき，裾模様や小紋とともに，この時代を代表するものとしてあげられるのが，縞と格子の模様である。江戸時代後期におけるこれらの模様の流行は，いわゆる「いき」の美意識を背景に，町方の好みを強く反映して広まったことは間違いないが，それが名物裂における間道の愛好と深く密着していることを見落としてはならない。

そもそも「しま」という言葉と概念については，江戸時代の書『貞丈雑記』（伊勢貞丈著・天保14年＜1843＞）に示唆に富んだ一文が見られる。巻三「小袖」の部に「貞丈言，今織物の筋あるを島と言は，島島より織り出す物に筋織る故，島と言なるべし，今の人は筋の事を島と言也」「島オリ物は外国ノ島ヨリ出スヲ言フ」とあって，筋模様が「島（しま)」と呼ばれるのは，当初これが外国の島々で織り出されたためであるという。しかも文明14年（1482）の『御供故実』や大永8年（1528）の『宗五大艸紙』などの書には「島織物」の名がすでに見えるから，「しま（島)」という言葉は，室町時代にはすでにそうした意味に使われていたと考えられる。

江戸時代中期後半頃になると，町方女性の間では縞や格子が衣服の模様として人気を博すようになったが，その要因の第一には，名物裂に含まれる舶来の縞織物の影響をあげることができる。江戸時代には様々な縞・格子裂，特に木綿の縞・格子裂が輸入されたが，やがてその中期から後期にかけて，増大する需要に応える形でこれらが国産化されるようになると，人々は単に格子や縞であるだけでは満足できなくなり，太さや配列・配色に好みを反映させて，無数の縞・格子の中から自分の趣味にあったものを選び取り，またそれらに様々な名前を付けて細かく区別するようになった。

縞，特に縦縞をいち早く着物に取り入れたのは，当時流行の先端を行く遊女や役者たちであった。しかし，木綿を素材とすることの多いこの時代の縞・格子の着物は，高価な模様染の着物とは異なり，一般の人々にとって容易に入手できるものであったから，これらはやがて彼らの間へと急速に広がっていったと考えられる。

名物裂と呼ばれない染織品

第2回目の流入期にわが国にもたらされながら，ついに狭義の名物裂にも，また広義の名物裂にも含められなかった裂類がある。これらは，ついに名物裂と呼ばれなかったばかりでなく，茶道にほとんど受け入れられることがなかった。ヨーロッパから輸入された様々な毛織物を中心とするいわゆる紅毛裂がそれである。

特殊な質感とこれが醸し出す独特の色感が，当時の茶の美意識に必ずしもそぐわなかったのかもしれないが，一方で武家の陣羽織や火事装束，また町人の衣服の一部や歌舞伎衣裳，さらには武家や町人が身近に用いた装身具類，たとえば筥迫（武家女性が懐紙や楊子・櫛などを入れたもの）や煙草入れなどにしばしば用いられた。

毛織物は羊毛がわが国で入手できないこともあってか，名物裂と呼ばれる染織品とは異なり，国内の染織にほとんど影響を与えることもなかったが，明治になって再びこれらが日本にもたらされ，同時に技術が伝えられると，その実用性と経済性から，木綿と並んですべての人々の日常生活の中で大きな役割を占めることとなった。

まとめ

浮世絵に描かれた名物裂を調査した結果，江戸時代中期以降，名物裂が茶道以外の世界にまで広く普及していたことが明らかになった。名物裂の概念の誕生と普及について述べた項で，文言としての「名物裂」とその内容についての社会的共通認識の定着が，松平不昧による『古今名物類聚』（寛政3年＜1791＞～9年）の「名物切之部」2巻の出版と深くかかわっていることを述べたが，本書によって，166点，106種の名物裂が図入りで示されたことは，実に大きな意味を持っていたと考えられる。

但し，茶道以外の使用目的においては，そのすべてが愛好の対象になったのではなく，比較的限られた名物裂が帯を中心に服飾や生活用具の染織品に用いられている。これは名物裂の大部分が紋織物であり，帯以外の用途には使用しにくいという問題がったからであろうと推測される。従って着物や夜着においては名物裂の意匠のみが取り入れられている。

これらと対照的に，名物裂の中で更紗のみは，染めものであるがゆえに，その使い勝手の良さから，帯を含む非常に多様な用途に使用されている。また江戸時代後期には，更紗の人気の高まりを反映して，一方ではオランダ商館を通じて名物裂とは系統の異なるヨーロッパ製の更紗を輸入する傾向を生み出した。これらは，名物裂とは呼ばれなかった羅紗をはじめとする羊毛製の製品とともに輸入された。

また国内で高まった更紗に対する需要を満たすため，国産化も進み，長崎・堺などで現在「和更紗」と呼んでいる種類の更紗を生産するようになった。

以上の状況は，絹を中心とする中国製の名物裂が，江戸時代中期以降も茶道と結びつくことによって，専ら日本の染織の最も伝統的な面を支えてゆくことになったのと対照的であり，たいへん興味深い現象である。

注

1) 拙著『絣』小学館・平成5年，pp. 10 − 11.
2) 桃山時代から江戸時代初期においては，長崎の平戸や堺，江戸時代には長崎の出島を通じて多くの中国製，あるいはヨーロッパ製の生地が日本にもたらされた。
3) 拙稿「肉筆浮世絵の服飾表現について」『肉筆浮世絵大観　1　東京国立博物館Ⅰ』＜講談社・平成6年10月＞ほか。

表1　分析に使用した出版物

［一般刊行物］

『名品揃物浮世絵　1　春信』ぎょうせい　1991

『名品揃物浮世絵　2　清長』ぎょうせい　1991

『名品揃物浮世絵　3　歌麿Ⅰ』ぎょうせい　1991

『名品揃物浮世絵　4　歌麿Ⅱ』ぎょうせい　1992

『名品揃物浮世絵　5　写楽』ぎょうせい　1991

『名品揃物浮世絵　6　豊国・国貞』ぎょうせい　1992

『名品揃物浮世絵　7　国貞・英泉』ぎょうせい　1991

『名品揃物浮世絵　8　北斎Ⅰ』ぎょうせい　1991

『名品揃物浮世絵　9　北斎Ⅱ』ぎょうせい　1992

『原色浮世絵大百科事典　第1巻　歴史』大修館　1981

『原色浮世絵大百科事典　第2巻　浮世絵師』大修館　1982

『原色浮世絵大百科事典　第3巻』大修館　1982

『原色浮世絵大百科事典　第4巻』大修館　1981

『原色浮世絵大百科事典　第5巻　風俗』大修館　1980

『原色浮世絵大百科事典　第6巻　作品1　師宣ー春信』大修館　1982

『原色浮世絵大百科事典　第7巻　作品2　清長ー歌麿』大修館　1980

『原色浮世絵大百科事典　第8巻　作品3　写楽ー北斎』大修館　1981

『日本美術全集第22巻　江戸庶民の絵画　風俗画と浮世絵』学研　1999

『日本美術全集第20巻　浮世絵　江戸の絵画Ⅳ・工芸Ⅱ』講談社　1991

『浮世絵三昧　ー国貞と英泉ー』有田書房　1980

『オランダ国立ライデン民族学博物館シーボルト・コレクション　秘蔵浮世絵Ⅰ』講談社　1978

『オランダ国立ライデン民族学博物館シーボルト・コレクション　秘蔵浮世絵Ⅱ』講談社　1978

『秘蔵浮世絵大観1大英博物館Ⅰ』講談社　1987

『秘蔵浮世絵大観2大英博物館Ⅱ』講談社　1987

『秘蔵浮世絵大観3大英博物館Ⅲ』講談社　1988

『秘蔵浮世絵大観大英博物館4ヴィクトリア・アルバート美術館Ⅰ』講談社　1989

『秘蔵浮世絵大観大英博物館5ヴィクトリア・アルバート美術館Ⅱ』講談社　1989

『秘蔵浮世絵大観大英博物館6ギメ東洋美術館Ⅰ』講談社　1990

『秘蔵浮世絵大観大英博物館7ギメ東洋美術館Ⅱ』講談社　1990

『浮世絵聚花ミネアポリス美術館ポートランド美術館他』小学館　1981

『浮世絵聚花ベルギー王立美術歴史博物館アムステルダム国立美術館』小学館　1981

『浮世絵聚花ホノルル美術館』小学館　1979

『浮世絵聚花大英博物館』小学館　1979
『浮世絵聚花ギメ東洋美術館パリ公立図書館』小学館　1980
『浮世絵聚花ベルリン東洋美術館・リートベルク美術館』小学館　1981
『浮世絵聚花フォッグ美術館・ネルソン美術館』小学館　1980
『肉筆浮世絵大観1 東京国立博物館Ⅰ』講談社　1994
『肉筆浮世絵大観2 東京国立博物館Ⅱ』講談社　1995
『肉筆浮世絵大観3 出光美術館』講談社　1996
『肉筆浮世絵大観10 千葉市美術館』講談社　1995
『ベベール・コレクション浮世絵上巻』日本経済新聞社　1976
『ベベール・コレクション浮世絵下巻』日本経済新聞社　1976

[展覧会図録]
『大英博物館　肉筆浮世絵名品展』朝日新聞社　1996
『大英博物館所蔵　浮世絵名作展』朝日新聞社　1985
『浮世絵　旧松方コレクションを中心として』東京国立博物館　1984
『UKIYOE FROM MATSUKATA COLLECTION』東京国立博物館　1991
『東京国立博物館所蔵　肉筆浮世絵』東京国立博物館　1993
『特別展　歌川国貞　幻のコレクション－「浄瑠璃づくし」と「百人美女」』北海道立帯広美術館　1995
『KUNISADA'S WORLD』Japan Society　1993
『新庄コレクション浮世絵図録』島根県立博物館　1991
『歌川豊春とその時代』太田記念美術館　1994
『浮世絵の華　絢爛たる肉筆の世界　肉筆浮世絵名作展』櫛形町立春仙美術館　1995
『特別展観　ベルギー王立美術歴史博物館所蔵　浮世絵とタピスリー』東京国立博物館　1995
『歌川国貞　－美人画を中心に－』静嘉堂文庫　1996
『艶と粋－肉筆浮世絵展』出光美術館　1996
『大谷コレクション肉筆浮世絵｜大谷孝吉蔵幻の浮世絵美人たち』ニューオータニ美術館　1991
『UKIYO-E PAINTINGS IN THE BURITISH MUSEUM』大英博物館　1992
『浮世絵名品百選展』リッカー美術館　1980
『美人画　Edo Beauties in Ukiyoe-e』ホノルル美術館
『プラハ国立美術館所蔵浮世絵展』太田記念美術館　1995
『麻布美術館肉筆浮世絵名品展』大阪市立美術館　1988
『ヴィンツイガーコレクション浮世絵名品展』リッカー美術館　1983
『大写楽展』東武美術館　1995
『浮世絵美人名品展』太田記念美術館　1987

『喜多川歌麿展』千葉市美術館　2006

［雑誌］

『肉筆浮世絵　太田記念美術館　別冊古美術 6』三彩新社　1985

表２　浮世絵に見られる名物裂

作品名称	作者名	制作年代	服飾の種別	名物裂の種類	所蔵者	員数	掲載書
扇屋にほてる	磯田湖龍斎	?	帯	富田金襴	東京国立博物館	1 枚	浮世絵・旧松方コレクションを中心として
海浜遊興	歌川豊国	寛政中期～後期	帯	富田金襴	大英博物館	3 枚続	大英博物館所蔵・浮世絵名作展
桜下遊女図	歌川豊国 (2代)	文政８～13年（1825～1830）	間着	富田金襴	東京国立博物館	1 幅	東京国立博物館所蔵肉筆浮世絵
英人風俗合・長崎丸山	歌川広重	?	間着	富田金襴	オランダ国立ライデン民族学博物館	1 枚	オランダ国立民族学博物館シーボルト・コレクション・秘蔵浮世絵Ⅰ
おさん茂兵衛	栄松斎長喜（子興）	?	小袖	富田金襴	東京国立博物館，グラブホーン・コレクション	1 枚	浮世絵・旧松方コレクションを中心として
京大坂江戸・三幅対太夫風俗	奥村利信	享保後期頃（1716～1736）	帯	富田金襴	グラブホーン・コレクション	1 枚	原色浮世絵百科辞典・第６巻・師宣ー春信
吉原仲ノ町図	勝川春潮	天明年間後期～寛政年間初期	帯	富田金襴	大英博物館	1 幅	大英博物館・肉筆浮世絵名品展
瀬川路之助の女房こむめ	琴飾北斎	文化４年(1807)	帯	富田金襴	太田記念美術館	1 枚	原色浮世絵百科辞典・第八巻・写楽ー北斎
風流美人子宝合	菊川英山	文化14年（1817）か?	帯	富田金襴	オランダ国立ライデン民族学博物館	1 枚	オランダ国立民族学博物館シーボルト・コレクション・秘蔵浮世絵Ⅱ
夏衣裳当世美人・荒木仕入の織高向キ	喜多川歌麿	?	帯	富田金襴	ベルギー王立美術歴史博物館	1 枚	名品揃物浮世絵４・歌麿Ⅱ
風流子宝合	喜多川歌麿（）	?	帯	富田金襴	ベルギー王立美術歴史博物館	1 枚	浮世絵とタピスリー
お染久松	喜多川歌麿	?	帯	富田金襴	新庄コレクション	?	新庄コレクション浮世絵図録
婚礼色直し之図	喜多川歌麿	文化初年頃	帯	富田金襴	平木浮世絵美術館	3 枚続	原色浮世絵大百科辞典第５巻・風俗
風流子宝合・覗き機関	鳥文斎栄之	?	帯	富田金襴	ベルリン東洋美術館	1 枚	名品揃物浮世絵３・歌麿Ⅰ
青楼美人六花仙・松葉屋喜瀬川	鳥文斎栄之	?	帯	富田金襴	大英博物館	1 枚	名品揃物浮世絵３・歌麿Ⅰ，浮世絵聚花大英博物館
風俗美人時計・亥ノ刻・芸者	鳥文斎栄之	?	帯	富田金襴	大英博物館	1 枚	名品揃物浮世絵３・歌麿Ⅰ
拳遊び図	月岡雪鼎（1710～1786）	?	帯	富田金襴	個人	1 幅	浮世絵の華・絢爛たる肉筆の世界・肉筆浮世絵名作展
四世岩井半四郎の乳人亜の井	東州斎写楽	寛政６年	守り袋	富田金襴	大英博物館	1 枚	大英博物館所蔵浮世絵名作展，浮世絵聚花大英博物館
美南見十二候・四月潮干狩り	鳥居清長	?	帯	富田金襴	東京国立博物館	2 枚続右のみ	UKIYOE FROM MATSUKATA COLLECTION
絵草紙売	鳥居清倍	?	狩衣	富田金襴	東京国立博物館	1 枚	UKIYOE FROM MATSUKATA COLLECTION
市村竹之丞・丹前	西村亜長	?	帯	富田金襴	東京国立博物館	1 枚	浮世絵・旧松方コレクションを中心として
遊女と禿図	菱川宗理（）	?	帯・袱	富田金襴	出光美術館	1 幅	艶と粋ー肉筆浮世絵展

作品名称	作者名	制作年代	服飾の種別	名物裂の種類	所蔵者	員数	掲載書
嵯峨ノ開帳朝参りの図	歌川国貞（一陽斎豊国・香蝶楼豊国）()	?	浴衣	角倉金襴	静嘉堂文庫	3枚続	歌川国貞
奉納提灯見立八百屋お七	歌川国貞（五渡亭）	文政元年	帯	角倉金襴	?	?	浮世絵三昧ー国貞と英泉ー
賢女八景・金沢落雁	歌川国芳	?	紐	角倉金襴	新庄コレクション	?	新庄コレクション浮世絵図録
東都名所両国夕すずみ	歌川広重	?	浴衣	角倉金襴	新庄コレクション	大判三枚	新庄コレクション浮世絵図録
月夜柳下の芸妓図	溪斎英泉()	?	帯	角倉金襴	太田記念美術館	1幅	太田記念美術館所蔵肉筆浮世絵・別冊古美術6
柳下美人図	鳥文斎栄之（1756～1829）	?	帯	角倉金襴	個人	1幅	浮世絵の華・絢爛たる肉筆の世界
胡蝶の夢	鳥文斎栄之	寛政末～享和（1789～1804）	小袖	角倉金襴	太田記念美術館	1幅	原色浮世絵百科辞典・第7巻・清長ー歌麿
雪中美女	歌川国貞（香蝶楼）	?	帯	角倉金襴・富田金襴	北九州市立美術館	?	国貞の浮世絵
弥生しののめ桜	歌川国貞（五渡亭）	文化年間	帯・間着	角倉金襴・宝尽・富田金襴	Rijksmuseum vor Volkenkunde-Leiden,Jan Cock Blomhoff Collection.	3枚続	KUNISADA'S WORLD,秘蔵浮世絵Ⅱ（オランダ国立ライデン民族学博物館シーボルト・コレクション）
嵯峨開帳ノ朝参りの図	歌川豊国（3代）（2代国貞）	?	浴衣・帯	角倉金襴・蜀江錦	静嘉堂文庫	1枚	原色浮世絵大百科辞典第5巻・風俗
東錦美人合・口紅さし		?		襟	大英博物館	1枚	大英博物館（小学館）
星や霜当世風俗・房楊子	歌川国貞（五渡亭）	?	袱	金春金襴	静嘉堂文庫	1枚	名品揃物浮世絵6・豊国・国貞
桜花美人図	歌川豊国（1769～1825）	?	帯	金春金襴	個人	1幅	浮世絵の華・絢爛たる肉筆の世界・肉筆浮世絵名作展
二美人図	歌川豊国	?	帯	金春金襴	東京国立博物館	1幅	東京国立博物館所蔵肉筆浮世絵
店先のおひさ	栄松斎長喜（子興）	?	帯	嵯峨桐金襴	ホノルル美術館	1枚	美人画・Edo Beauties in Ukiyoe-e
夏衣裳当世美人・荒木仕入の織蔦向キ	喜多川歌麿	?	帯	嵯峨桐金襴	ベルギー王立美術歴史博物館	1枚	名品揃物浮世絵4・歌麿Ⅱ
屏屋内たき川	一筆斎文調()	?	帯	嵯峨桐金襴	ベルギー王立美術歴史博物館	1枚	浮世絵とタピスリー
ひな鶴観音	勝川春章	?	下着	笹蔓緞子	内山晋氏	1幅	原色浮世絵大百科辞典第1巻・歴史
鶴屋内すが原・たけの・むめの	勝川春潮	天明7年（1787）?	帯	笹蔓緞子		2枚の内1枚	オランダ国立民族学博物館シーボルト・コレクション・秘蔵浮世絵Ⅰ
流行模様哥麿形・梅川・中兵衛	喜多川歌麿	寛政末～享和（1789～1804）	帯	笹蔓緞子	グラブホーン・コレクション	1枚	原色浮世絵百科辞典・第7巻・清長ー歌麿
見立東下り	喜多川歌麿	?	帯	笹蔓緞子	ホノルル美術館	3枚続	美人画・Edo Beauties in Ukiyoe-e
橋下の釣	喜多川歌麿	寛政末頃	帯	笹蔓緞子	城西大学水田コレクション・平木浮世絵美術館	1枚	日本美術全集第20巻・江戸庶民の絵画・風俗画と浮世絵
婦人相学十体・指を折る女	喜多川歌麿	?	帯	笹蔓緞子	大英博物館	1枚	名品揃物浮世絵3・歌麿Ⅰ
娘日時計・宋の刻	喜多川歌麿	?	帯	笹蔓緞子	東京国立博物館	1枚	浮世絵・旧松方コレクションを中心として
浮世四十八癖二篇・寒ひに薄着はそれしやのくせ	溪斎英泉	?	帯	笹蔓緞子	オランダ国立ライデン民族学博物館	1枚	オランダ国立民族学博物館シーボルト・コレクション・秘蔵浮世絵Ⅱ
風流四季遊・現英の雑司ヶ谷詣	鳥文斎栄之	?	帯	笹蔓緞子	日本浮世絵博物館	1枚	名品揃物浮世絵3・歌麿Ⅰ
風俗東之錦・傘さす美人	鳥居清長	?	帯	笹蔓緞子	ヴィンツイガーコレクション	?	ヴィンツイガーコレクション浮世絵名品展
東風俗略十種香・娘と侍女	鳥居清長	?	帯	笹蔓緞子	東京国立博物館	1枚	名品揃物浮世絵2・清長
十體画風俗	鳥居清長	寛政5年頃	屏風の縁	笹蔓緞子	平木浮世絵美術館	1枚	浮世絵名品百選展
咲く揃新宅の花壇・玉屋内小紫	喜多川歌麿	?	帯	笹蔓緞子	新庄コレクション	?	新庄コレクション浮世絵図録

作品名称	作者名	制作年代	服飾の種別	名物裂の種類	所蔵者	員数	掲載書
新吉原京町壱丁目・鶴屋内かしく	歌川国貞（五渡亭）	文化年間	小袖	白極緞子	Rijksmuseum vor Volken-kunde,Leiden./ オランダ国立ライデン民族学博物館シーボルトコレクション	?	KUNISADA'S WORLD, 秘蔵浮世絵Ⅱ（オランダ国立ライデン民族学博物館シーボルト・コレクション）
江戸十二鐘 せうとう寺	歌川国貞（五渡亭）	?	袱	白極緞子	オランダ国立ライデン民族学博物館	1枚	オランダ国立民族学博物館シーボルト・コレクション・秘蔵浮世絵Ⅱ
江戸十二鐘 天龍寺	歌川国貞（五渡亭）	?	半襟	白極緞子	オランダ国立ライデン民族学博物館	1枚	オランダ国立民族学博物館シーボルト・コレクション・秘蔵浮世絵Ⅱ
百人美女	歌川国貞（五渡亭）落款・印章なし	文政～天保	間箱	白極緞子	オランダ国立ライデン民族学博物館	1枚	オランダ国立民族学博物館シーボルト・コレクション・秘蔵浮世絵Ⅱ
玄徳風雅孔明	歌川国貞（五渡亭）()	?	間箱	白極緞子	ベルギー王立美術歴史博物館，北九州市立美術館	3枚続	浮世絵とタピスリー，国貞の浮世絵
今様大津絵	歌川国貞（五渡亭）	文化12年	間箱	白極緞子	高橋博信氏	?	特別展歌川国貞・幻のコレクション－「浄瑠璃づくし」と「百人美女」北海道立帯広美術館
月雪花ノ内・向島月見	歌川国貞（五渡亭）()	?	間箱	白極緞子	静嘉堂文庫	3枚続	歌川国貞
江戸花見たて六歌仙	歌川国貞（五渡亭）()	?	前掛け	白極緞子	静嘉堂文庫	3枚続	歌川国貞
江戸芸・北国他所行・田舎娘	歌川国貞（五渡亭）()	?	間箱	白極緞子	静嘉堂文庫	3枚続	歌川国貞
極彩色時世仕立・縫いもの	歌川国貞（五渡亭）	?	布	白極緞子	北九州市立美術館	?	国貞の浮世絵
当世美女香雅風景・上野の花見	歌川国貞（五渡亭）	?	帯	白極緞子	北九州市立美術館	?	国貞の浮世絵
三味線と芸者	歌川国政	?	帯	白極緞子	ホノルル美術館	1枚	美人画・Edo Beauties in Ukiyoe-e
役者舞台之姿絵・はま村や	歌川豊国	?	打掛	白極緞子	ジュネーブ・ボール財団，バウアー財団	1枚	名品揃物浮世絵6・豊国・国貞・豊国・国貞，浮世絵聚花ベルリン東洋美術館・ハートベルグ美術館
花に嵐	歌川豊国	?	小袖	白極緞子	ホノルル美術館	3枚	美人画・Edo Beauties in Ukiyoe-e
役者舞台之姿絵・多起のや	歌川豊国	寛政6年	帯	白極緞子	平木浮世絵美術館，ミネアポリス美術館	1枚	ミネアポリス美術館ポートランド美術館他，浮世絵名品百選展
二芸妓図	歌川豊広	?	帯	白極緞子	麻布美術館	1幅	麻布美術館所蔵肉筆浮世絵名品展
内と外姿八景・桟橋の秋月・九あけの妓はん	歌川広重	?	間箱	白極緞子	オランダ国立ライデン民族学博物館	1枚	オランダ国立民族学博物館シーボルト・コレクション・秘蔵浮世絵Ⅰ
美人風俗合・京島原・角徳内在原太夫	歌川広重	文政初年（1818）	間箱	白極緞子	オランダ国立ライデン民族学博物館	1枚	オランダ国立民族学博物館シーボルト・コレクション・秘蔵浮世絵Ⅰ
若衆の舞	喜多川歌麿	?	帯	白極緞子	アッヘンバック版画財団	3枚続	ミネアポリス美術館ポートランド美術館他，浮世絵名品百選展
女織蚕手桑草・十一	喜多川歌麿	寛政末頃	帯	白極緞子	ヴィンツイガーコレクション	?	ヴィンツイガーコレクション浮世絵名品展
婦人相学十躰・浮気の相	喜多川歌麿	?	浴衣	白極緞子	東京国立博物館，大英博物館，ミネアポリス美術館・ゲール・コレクション	1枚	UKIYOE FROM MATSUKATA COLLECTION，大英博物館所蔵名品揃物浮世絵3・歌麿Ⅰ
難波屋店先	鳥文斎栄之	寛政頃	帯	白極緞子	水田コレクション	1枚	水田コレクション図録
雅楽美撰合・初貫座敷之図・扇屋滝川	鳥文斎栄之	寛政8～9年頃	打掛	白極緞子	大英博物館	3枚組の内の1枚	大英博物館所蔵浮世絵名作展，浮世絵聚花大英博物館
六代目市川団十郎のみまな行教	東州斎写楽	寛政六年十一月	羽織・袷付	白極緞子	ボストン美術館	1枚	大写楽展
向島桜下二美人の図	水野ろ朝()	?	帯	白極緞子	太田記念美術館	1幅	太田記念美術館所蔵肉筆浮世絵・別冊古美術6
雅楽美人六花仙・扇屋花扇	鳥文斎栄之	?	間箱	白極緞子・角倉金襴	ニューヨーク公立図書館，ベルギー王立歴史美術館	1枚	名品揃物浮世絵3・歌麿Ⅰ，浮世絵聚花ベルギー王立歴史美術館・アムステルダム王立美術館

作品名称	作者名	制作年代	服飾の種別	名物裂の種類	所蔵者	員数	掲載書
御殿女中	歌川豊国	寛政中期～後期	帯・小袖	白極緞子・宝尽・荒磯緞子もどき	大英博物館	3枚続	大英博物館所蔵・浮世絵名作展
大津絵つくし・瓢箪駒	歌川国貞（五渡亭）	文政10年	帯	白極緞子の地	?	?	浮世絵三昧ー国貞と英泉ー
児戯	歌川豊国	?	小袖	白極緞子の地	ミネアポリス美術館	1枚	ミネアポリス美術館ポートランド美術館他
雪の三囲参り	歌川豊広	?	帯	白極緞子の地	ギメ東洋美術館	1枚	ギメ東洋美術館・パリ国立図書館
太々講・二見浦	勝川春山	?	帯	白極緞子の地	ギメ東洋美術館	3枚	ギメ東洋美術館・パリ国立図書館
新吉原仁和賀全盛遊・舟花咲初汐	喜多川歌麿	?	小袖	白極緞子の地	?	1枚	ベルギー王立美術歴史博物館・アムステルダム国立美術館
二つ枕	喜多川歌麿	?	帯	白極緞子の地	ギメ美術館	3枚続	日本美術全集第22巻・江戸庶民の絵画・風俗画と浮世絵
屏風かげの男女	喜多川歌麿	?	帯	白極緞子の地	フィッツウイリアム博物館	1枚	大英博物館（小学館
娘日時計・午の刻	喜多川歌麿	?	帯	白極緞子の地	東京国立博物館，ボストン美術館	1枚	浮世絵・旧松方コレクションを中心として，名品揃物浮世絵3・歌麿I
納涼美人図	鳥喜斎栄綾（）	?	帯	白極緞子の地	ニューオータニ美術館	1幅	大谷コレクション肉筆浮世絵｜大谷孝吉蔵幻の浮世絵美人たち
大文字屋内・一もと・本津枝	2代喜多川歌麿	?	下袴	白極緞子の地	松方三郎コレクション	1枚	浮世絵美人名品展
当世花くらへ	歌川国貞（五渡亭）	文政期	小袖・半襟	白極緞子の地・大内菱	オランダ国立ライデン民族学博物館	1枚	オランダ国立民族学博物館シーボルト・コレクション・秘蔵浮世絵II
江戸名所百人美女・今戸	歌川豊国	安政4年	小袖	白極緞子の地と三崩し	高橋博信氏	?	特別展歌川国貞・幻のコレクションー「浄瑠璃づくし」と「百人美女」北海道立帯広美術館
雛形若菜初模様・松葉屋内染之介	磯田湖龍斎	?	打掛	雲珠緞子	ベベール・コレクション	1枚	ベベール・コレクション浮世絵上巻
豊国豊広両画十二候・五月	歌川豊広	?	帯	雲珠緞子	ホノルル美術館	三枚	美人画・Edo Beauties in Ukiyoe-e
三世市川八百蔵・四世岩井半四郎・尾上松助	勝川春章	?	帯	雲珠緞子	ベベール・コレクション?	三枚	ベベール・コレクション浮世絵上巻
源氏八景・朝顔の暮雪・鶴屋内大淀	菊川英山	?	袱	雲珠緞子	プラハ国立美術館	1枚	プラハ国立美術館所蔵浮世絵展
武者絵形子供遊・鼎清	国後	喜多川歌麿	帯	雲珠緞子	?	1枚	ベルギー王立美術歴史博物館・アムステルダム国立美術館
名所風景美人十二相・盃	喜多川歌麿	?	襟	雲珠緞子	アッヘンバック版画財団	1枚	ミネアポリス美術館ポートランド美術館他
牛車の美人	喜多川歌麿	享和～文化	帯	雲珠緞子	プラハ国立美術館	3枚続	プラハ国立美術館所蔵浮世絵展
髪梳き	鳥居清倍	正徳頃	帯	雲珠緞子	ベベール・コレクション	1枚	ベベール・コレクション浮世絵・上巻
桜下男女図	磯田湖龍斎（）	?	帯	剣先緞子	ニューオータニ美術館/	1幅	大谷コレクション肉筆浮世絵｜大谷孝吉蔵幻の浮世絵美人たち
石橋図	磯田湖龍斎（）	安永年間（1772～81）	帯	剣先緞子	出光美術館	1幅	肉筆浮世絵大観3出光美術館
新板錦絵当世美人合・梅好きどり	歌川国貞（五渡亭）	文化14年	帯	剣先緞子	高橋博信氏，Rijksmuseum vor Volkenkunde,Leiden./オランダ国立ライデン民族学博物館シーボルトコレクション	?	特別展・歌川国貞・幻のコレクションー「浄瑠璃づくし」と「百人美女」北海道立帯広美術館
柳下男女図	歌川国久	文化年間	帯	剣先緞子	東京国立博物館	1幅	肉筆浮世絵大観2東京国立博物館2
くるわ十二月図	歌川豊春	天明年間（1781～89）	帯	剣先緞子	東京国立博物館	3幅対	肉筆浮世絵大観2東京国立博物館2
梅もぎ	歌川豊広	?	帯	剣先緞子	高橋誠一郎	三枚	原色浮世絵大百科辞典第1巻・歴史
柿もぎ	歌川豊広	?	帯	剣先緞子	新庄コレクション	三枚	新庄コレクション浮世絵図録

名物裂の概念の成立と受容の実態

作品名称	作者名	制作年代	服飾の種別	名物裂の種類	所蔵者	員数	掲載書
花魁図	菊川英山	文化年間(1804～18)	帯	剣先緞子	千葉市美術館	1幅	肉筆浮世絵大観10千葉市美術館
寄樓十二時続・酉ノ刻	喜多川歌麿	?	帯	剣先緞子	東京国立博物館，ベルギー王立歴史美術館	1枚	名品揃物浮世絵3・歌麿Ⅰ
梅窓美人図	し烏斎栄里	?	帯	剣先緞子	東京国立博物館	1幅	浮世絵・旧松方コレクションを中心として
七賢人略美人新造揃・松葉屋内宮川	鳥文斎栄之	?	帯	剣先緞子	シカゴ美術館・バッキンガム・コレクション	1枚	名品揃物浮世絵3・歌麿Ⅰ
お高祖頭巾の女	歌川国貞(香蝶楼)	天保4年	間道	荒磯緞子	?	縦二枚続き	浮世絵三昧ー国貞と英泉ー
三ヶ月お仙つぼね見世之図	歌川国貞(五渡亭)	?・後刷り	帯	荒磯緞子	オランダ国立ライデン民族学博物館	3枚続きの内2枚	オランダ国立民族学博物館シーボルト・コレクション・秘蔵浮世絵Ⅱ
江戸名所百人美女・山王御宮	歌川豊国	安政4年	?(小袖を肩脱ぎしている?)	荒磯緞子	高橋博信氏	?	特別展歌川国貞・幻のコレクションー「浄瑠璃づくし」と「百人美女」北海道立帯広美術館
平井和泉屋・泉舟	柳川重信	?	帯	荒磯緞子	神奈川県立歴史博物館	1枚	丹波コレクション
花鳥茶屋	歌川豊国	寛政中期～後期	帯	荒磯緞子もどき	大英博物館	3枚続の内左2枚	大英博物館所蔵・浮世絵名作展
深川八幡境内成田山不動明王開帳の図	歌川国貞(五渡亭)	文化年間	間道	遠州もどき	?	3枚続	KUNISADA'S WORLD, 秘蔵浮世絵Ⅱ(オランダ国立ライデン民族学博物館シーボルト・コレクション)
立ち美人図	歌川豊国	嘉永6年	小袖	遠州もどき	Museum of Fine Arts, Boston, Bigelow Collection.	1幅	KUNISADA'S WORLD
玉川布晒し図	魚屋北溪	?	帯	遠州緞子	東京国立博物館	1幅	東京国立博物館所蔵肉筆浮世絵
山下八百蔵	一筆斎文調()	明和頃	帯	蜀江錦	水田コレクション	1枚	水田コレクション図録
寄樓美人雪月花・花	歌川国貞	文化6年	帯	蜀江錦	高橋博信氏	三枚続きか?	特別展歌川国貞・幻のコレクションー「浄瑠璃づくし」と「百人美女」北海道立帯広美術館
新板錦絵当世美人合・三光きどり	歌川国貞(五渡亭)	?	帯	蜀江錦	Rijksmuseum vor Volkenkunde,Leiden, Jan Cock Blomhoff Collection./オランダ国立ライデン民族学博物館シーボルトコレクション	?	KUNISADA'S WORLD, 秘蔵浮世絵Ⅱ(オランダ国立ライデン民族学博物館シーボルト・コレクション)
新吉原京町壱丁目・岡本屋内巻の尾	歌川国貞(五渡亭)	文化年間	夜具	蜀江錦	Rijksmuseum vor Volkenkunde,Leiden./オランダ国立ライデン民族学博物館シーボルトコレクション	?	KUNISADA'S WORLD, 秘蔵浮世絵Ⅱ(オランダ国立ライデン民族学博物館シーボルト・コレクション)
北国五色盃・花魁	歌川国貞(五渡亭)	?	帯	蜀江錦	静嘉堂文庫	1枚	名品揃物浮世絵6・豊国・国貞
雪こかし	歌川豊国()	?	帯	蜀江錦	ベルギー王立美術歴史博物館	3枚続	浮世絵とタピスリー
風流三幅対・中・富本豊雄	歌川豊国		帯	蜀江錦	レーゲンスブルク市博物館	3枚続きの内1枚	名品揃物浮世絵6・豊国・国貞・豊国・国貞，浮世絵聚花ベルリン東洋美術館・ハートベルグ美術館
江戸名所百人美女・王子稲荷	歌川豊国	安政4年	帯	蜀江錦	高橋博信氏	?	特別展歌川国貞・幻のコレクションー「浄瑠璃づくし」と「百人美女」北海道立帯広美術館
江戸名所百人美女・第六天神	歌川豊国	安政4年	帯	蜀江錦	高橋博信氏	?	特別展歌川国貞・幻のコレクションー「浄瑠璃づくし」と「百人美女」北海道立帯広美術館
品川寄樓遊興	歌川豊国	?	帯	蜀江錦	東京国立博物館	3枚続	浮世絵・旧松方コレクションを中心として
観桜酒宴図	歌川豊広	?	蜀江錦の帯	蜀江錦	太田記念美術館	1幅	歌川豊春とその時代
桟橋の芸者	勝川春晩()	?	帯	蜀江錦	太田記念美術館	1幅	太田記念美術館所蔵肉筆浮世絵・別冊古美術6
美人立姿図	川枝豊信	?	小袖	蜀江錦	東京国立博物館	1幅	東京国立博物館所蔵肉筆浮世絵

作品名称	作者名	制作年代	服飾の種別	名物裂の種類	所蔵者	員数	掲載書
吉原傾城新英人合自筆鏡・よつめやうた川・よつめ屋内なゝ里	北尾政演	?	帯	蜀江錦	大英博物館	大倍版錦絵画帖1帖	大英博物館・肉筆浮世絵名品展
見立御所車	喜多川歌麿()	?	帯	蜀江錦	ベルギー王立英術歴史博物館	3枚続	浮世絵とタピスリー
当世全盛盛英人揃・丁子屋内雛鶴	喜多川歌麿	?	帯	蜀江錦	東京国立博物館	1枚	名品揃物浮世絵3・歌麿Ⅰ
青楼十二時続・辰ノ刻	喜多川歌麿	?	夜着	蜀江錦	東京国立博物館，ベルギー王立歴史英術館	1枚	名品揃物浮世絵3・歌麿Ⅰ
新吉原万屋八郎兵衛格子先	喜多川月麿()	?	帯	蜀江錦	神奈川県立歴史博物館	1枚	丹波コレクション
武蔵飛鳥山勝景	喜多川月麿()	?	帯	蜀江錦	神奈川県立歴史博物館	1枚	丹波コレクション
夜の梅	鈴木春信	?	帯	蜀江錦	?	1枚	原色浮世絵百科辞典・第6巻・師宣ー春信
藤原敏行朝臣	鈴木春信	明和3～4年(1766～1767)	帯	蜀江錦	MOA英術館	1枚	日本英術全集第22巻・江戸庶民の絵画・風俗画と浮世絵
闇の遊女と客	鈴木春信()	?	枕	蜀江錦	ベルギー王立英術歴史博物館	1枚	浮世絵とタピスリー
風流うたひ八景・紅葉夕照	鈴木春信	?	帯	蜀江錦	太田記念英術館	1枚	名品揃物浮世絵1・春信
見立竹林七賢人	鈴木春信	宝暦頃(1751～1764)	帯	蜀江錦	東京国立博物館	3枚続	原色浮世絵百科辞典・第6巻・師宣ー春信
風流やつし七小町・清水	鈴木春信	?	帯	蜀江錦	東京国立博物館	1枚	名品揃物浮世絵1・春信
枝垂桜三英人	月岡雪鼎	明和～安永頃(1764～1772)	帯	蜀江錦	氏家コレクション	1幅	原色浮世絵百科辞典・第6巻・師宣ー春信
英南見十二候・三月御殿山の花見	鳥居清長	?	帯	蜀江錦	エール大学・シカゴ英術館	2枚続右のみ(エ)	原色浮世絵大百科辞典第5巻・風俗，名品揃浮世絵2清長
四条河原夕涼躰	鳥居清長	?	帯	蜀江錦	東京国立博物館，ミネアポリス英術館	3枚続	UKIYOE FROM MATSUKATA COLLECTION
宮詣図	西川祐信	享保後期頃(1716～1736)	被衣	蜀江錦	フリア英術館	1枚	原色浮世絵百科辞典・第6巻・師宣ー春信
柳下腰掛英人図	西川祐信	享保後期～元文頃(1716～1741)	帯	蜀江錦	出光英術館	1幅	原色浮世絵百科辞典・第6巻・師宣ー春信
狂女丹前道行	西村重長	享保頃(1716～1735)	帯	蜀江錦	ウィーン国立工芸英術館	1枚	原色浮世絵百科辞典・第6巻・師宣ー春信
四季の秋ざしきの月	西村重長	?	帯	蜀江錦	ベベール・コレクション	1枚	ベベール・コレクション浮世絵・上巻
立姿英人図	長谷川光信()	?	小袖	蜀江錦	出光英術館	1幅	艶と粋ー肉筆浮世絵展
英人立姿図	吉原真龍	?	帯	蜀江錦	水田コレクション	1幅	水田コレクション図録
虚無僧図	潞江楼()	?	?	蜀江錦	ニューオータニ英術館	1幅	大谷コレクション肉筆浮世絵｜大谷孝吉蔵幻の浮世絵英人たち
見立浄瑠璃姫牛若丸	鳥居清長	?	帯	蜀江錦・剣先緞子・宮田金襴	東京国立博物館	3枚続	UKIYOE FROM MATSUKATA COLLECTION
玉屋内濃紫・鶴屋内たち花・あびや内江川	歌川国貞(五渡亭)	文化年間	帯	蜀江錦・更紗	Rijksmuseum vor Volkenkunde,Leiden, Jan Cock Blomhoff Collection./オランダ国立ライデン民族学博物館シーボルトコレクション	3枚続	KUNISADA'S WORLD, 秘蔵浮世絵Ⅱ(オランダ国立ライデン民族学博物館シーボルト・コレクション)
青楼十二時続・申ノ刻	喜多川歌麿	?	打掛	蜀江錦・白極緞子	東京国立博物館，ベルギー王立歴史英術館	1枚	名品揃物浮世絵3・歌麿Ⅰ，浮世絵聚花ベルギー王立歴史英術館・アムステルダム国立英術館
時世粧英人合	歌川国丸	?	帯	有栖川錦	オランダ国立ライデン民族学博物館	1枚	オランダ国立民族学博物館シーボルト・コレクション・秘蔵浮世絵Ⅰ
江戸新吉原八朔白無垢の図	歌川豊国(3代)	?	袱	有栖川錦	神奈川県立歴史博物館	1枚	丹波コレクション

名物裂の概念の成立と受容の実態

作品名称	作者名	制作年代	服飾の種別	名物裂の種類	所蔵者	員数	掲載書
野外を遊歩する二美人	勝川春湖	?	帯	有栖川錦	神奈川県立歴史博物館	1枚	丹波コレクション
美南見十二候・六月茶屋の酒宴	鳥居清長	?	帯	有栖川錦	シカゴ美術館・バッキンガム・コレクション	2枚続	名品揃物浮世絵2・清長
江戸新吉原八朔白無垢の図	歌川国貞（五渡亭）()	?	袱	有栖川裂	静嘉堂文庫	3枚続	歌川国貞
御名残一世一代・芝翫	歌川国貞（五渡亭）	文政2年（1819）か?	小袖	御朱印裂	オランダ国立ライデン民族学博物館	1枚	オランダ国立民族学博物館シーボルト・コレクション
当世相姓愼中鏡・三かつ半七	歌川国貞（五渡亭）	文政3・4年（1820・21）頃か?	産衣	御朱印裂	オランダ国立ライデン民族学博物館	1枚	オランダ国立民族学博物館シーボルト・コレクション・秘蔵浮世絵Ⅱ
見立井筒	喜多川歌麿()	?	帯	御朱印裂	ベルギー王立美術歴史博物館	1枚	浮世絵とタピスリー
二美人図	葛飾北斎	40代後半	帯	御朱院裂	麻布美術館	1幅	麻布美術館肉筆浮世絵名品展
鷹狩行列	喜多川歌麿	?	帯	御朱院裂	ピッツバーグ美術館	3枚続	ミネアポリス美術館ポートランド美術館他，浮世絵名品百選展
見立井筒	鳥文斎栄之	?	帯	御朱院裂	ポートランド美術館	3枚続き	ミネアポリス美術館ポートランド美術館他，浮世絵名品百選展
哥楼美撰合・床遊之図・丁子屋佐山	鳥文斎栄之	?	帯	御朱印裂	シカゴ美術館・バッキンガム・コレクション	1枚	名品揃物浮世絵3・歌麿Ⅰ
風俗略六芸・琴	鳥文斎栄之	寛政中期頃（1789～1801）	帯	御朱印裂	慶応義塾大学	1枚	日本美術全集第22巻・江戸庶民の絵画・風俗画と浮世絵
風俗美人時計	喜多川歌麿	寛政末～享和初	帯	御朱院裂	?	?	原色浮世絵大百科辞典第5巻・風俗
江戸自慢・両国夕涼	歌川国貞（五渡亭）()	?	帯	糸屋風通	静嘉堂文庫	1枚	歌川国貞
桜下美人図	水野ろ朝()	文化13年（1816）	帯	糸屋風通	出光美術館	2幅	肉筆浮世絵大観3出光美術館
哥楼志知賢女	勝川春章	?	帯	糸屋風通・更紗	クリーブランド美術館	1枚	ミネアポリス美術館ポートランド美術館他，浮世絵名品百選展
月下舟遊び図	磯田湖龍斎()	安永年間前期（1772～81）	帯	更紗	千葉市美術館	1幅	肉筆浮世絵大観10千葉市美術館
花魁と禿	磯田湖龍斎()	?	帯	更紗	太田記念美術館	1幅	太田記念美術館所蔵肉筆浮世絵・別冊古美術6
犬を連れた美人図	磯田湖龍斎	安永年間後期	羽織	更紗	大英博物館	1幅	大英博物館肉筆浮世絵名品展
羽根突き図	磯田湖龍斎()	天明元年～三年（1781～83）	間着	更紗	東京国立博物館	1幅	肉筆浮世絵大観2東京国立博物館2
美人愛猫図	磯田湖龍斎	天明年間	間着	更紗	東京国立博物館	1枚	浮世絵・旧松方コレクションを中心として
遊女道中図	磯田湖龍斎()	天明年間	間着	更紗	東京国立博物館	1幅	肉筆浮世絵
立美人図	歌川国貞（1786～1864）	?	間着	更紗	個人	1幅	浮世絵の華・絢爛たる肉筆の世界・肉筆浮世絵名作展
浄瑠璃づくし・小紫権八・□（うまへんに盤）山比賀塚	歌川国貞（香蝶楼）	天保3年	帯	更紗	高橋博信氏	?	特別展歌川国貞・幻のコレクション－「浄瑠璃づくし」と「百人美女」北海道立帯広美術館
当世江戸舟ゝ女	歌川国貞（香蝶楼）	?	帯	更紗	北九州市立美術館	?	国貞の浮世絵
吉原の花魁たち	歌川国貞（五渡亭）	文政9年	間着	更紗	?	藍刷り三枚続き	浮世絵三昧－国貞と英泉－
新板錦絵当世美人合・秀佳きどり	歌川国貞（五渡亭）()	?	打掛・夜着	更紗	静嘉堂文庫	1枚	歌川国貞
当世三十弐相・あづまのお客もうけ相	歌川国貞（五渡亭）()	?	手鏡入れ	更紗	静嘉堂文庫	1枚	歌川国貞
北国五色盛	歌川国貞（五渡亭）()	?	間着	更紗	静嘉堂文庫	1枚	歌川国貞
姐家内証花見図	歌川国貞（五渡亭）()	?	打掛	更紗	静嘉堂文庫，北九州市立美術館	3枚続	歌川国貞，国貞の浮世絵
新吉原江戸町巷丁目・玉弥内節居	歌川国貞（五渡亭）	文化年間	帯	更紗	北九州市立美術館	1枚	国貞の浮世絵

作品名称	作者名	制作年代	服飾の種別	名物裂の種類	所蔵者	員数	掲載書
北国五色墨・内証の女房	歌川国貞（五渡亭）	?	間着	更紗	静嘉堂文庫	1枚	名品揃物浮世絵6・豊国・国貞
美人立姿図	歌川国長（）	?	間着	更紗	ニューオータニ美術館	1幅	大谷コレクション肉筆浮世絵｜大谷孝吉蔵幻の浮世絵美人たち
娘と猫	歌川国政	?	炬燵布団	更紗	東京国立博物館，ボストン美術館，ベルリン東洋美術館（但し後刷りか）	1枚	浮世絵・旧松方コレクションを中心として
風俗女水滸伝・武松	歌川国芳（）	?	炬燵布団	更紗	ベルギー王立美術歴史博物館	1枚	浮世絵とタピスリー
花魁立姿	歌川豊清（）	?	襟	更紗	太田記念美術館	1幅	肉筆浮世絵・太田記念美術館所蔵・別冊古美術6
役者舞台之姿絵・音羽屋	歌川豊国	?	間着	更紗	ミネアポリス美術館・ゲール・コレクション	1枚	名品揃物浮世絵6・豊国・国貞・豊国・国貞，浮世絵聚花ベルリン東洋美術館・ハートベルグ美術館
三囲社頭美人俳優図	歌川豊国	文政一・二年	下着	更紗	高橋誠一郎氏	1幅	原色浮世絵大百科辞典・第八巻・写楽ー北斎
円窓美人図	歌川豊国（）	寛政10年（1798）頃	風呂敷	更紗	出光美術館	1幅	艶と粋ー肉筆浮世絵展
炬燵美人図	歌川豊国	?	炬燵布団	更紗	東京国立博物館	1幅	東京国立博物館所蔵肉筆浮世絵
郭中美人競・越前屋内浅妻	栄昌	寛政六年～九年（1794～）	掛襟	更紗	ライデン国立民族学博物館	1枚	ベルギー王立美術歴史博物館
普玉恵玉	栄松斎長喜（子興）	?	帯	更紗	ポートランド美術館	3枚	ミネアポリス美術館ポートランド美術館他，浮世絵名品百選展
夕涼み二美人図	勝川春暁	寛政年間	帯	更紗	東京国立博物館	1幅	東京国立博物館所蔵肉筆浮世絵
遠磨と遊女図	勝川春好	享和3年（1803）	間着	更紗	東京国立博物館	1幅	東京国立博物館所蔵肉筆浮世絵
会本拝開夜姫子取	勝川春章	?	帯	更紗	?	1帖	原色浮世絵百科辞典・第7巻・清長ー歌麿
姫女風俗十二カ月・十一月白雪	勝川春章	天明頃	炬燵布団	更紗	さらさ	MOA美術館	原色浮世絵大百科辞典第5巻・風俗
燕に太夫図	勝川春章	天明頃	帯	更紗	東京国立博物館	1幅	肉筆浮世絵大観二・東京国立博物館2
二代小佐川常世の月小夜	勝川春潮	寛政元年正月中村座上演	帯	更紗	プラハ国立美術館	1枚	プラハプラハ国立美術館所蔵浮世絵展
菖蒲園	勝川春潮（）	?	帯	更紗	ベルギー王立美術歴史博物館	3枚続	浮世絵とタピスリー
浮世雪月華・華	勝川春潮	?	帯	更紗	メトロポリタン美術館・フィリップ・コレクション	1枚	名品揃物浮世絵2・清長
五節句・雛祭	勝川春潮	?	振袖	更紗	東京国立博物館	1枚	原色浮世絵大百科辞典・第二巻・浮世絵師
芸者と箱屋	北尾重政	?	下着	更紗	ホノルル美術館	1枚	美人画・Edo Beauties in Ukiyoe-e
当世見立美人八景	北尾重政	?	帯	更紗	ホノルル美術館	1枚	美人画・Edo Beauties in Ukiyoe-e
品川君姿の八景・汐干の晴嵐	北尾重政	?	帯	更紗	東京国立博物館	1枚	浮世絵・旧松方コレクションを中心として
東西南北美人・東方乃美人・仲町・於仲・おし満	北尾重政	?	帯	更紗	東京国立博物館，グラブホーン・コレクション，ホノルル美術館	1枚	浮世絵・旧松方コレクションを中心として，原色浮世絵百科辞典・第7巻・清長ー歌麿
吉原傾城新美人合自筆鏡・大もんしやたか袖	北尾政演	?	帯	更紗	千葉市美術館	大倍版錦絵画帖1帖	名品揃物浮世絵2・清長
吉原傾城新美人合自筆鏡・滝川・花扇	北尾政演	?	帯	更紗	千葉市美術館	大倍版錦絵画帖1帖	名品揃物浮世絵2・清長
当世美人色競・山下花	北尾政演	?	帯	更紗	慶応義塾大学・高橋誠一郎コレクション	1枚	名品揃物浮世絵2・清長
青楼名君自筆集	北尾政演	天明三年（一七八三）	帯	更紗	神奈川県立歴史博物館	1冊	丹波コレクション

名物裂の概念の成立と受容の実態

作品名称	作者名	制作年代	服飾の種別	名物裂の種類	所蔵者	員数	掲載書
吉原傾城新美人合自筆鏡・てうしやひなつる・てうしやてう山	北尾政演	?	帯	更紗	千葉市美術館	大倍版錦絵画帖１帖	名品揃物浮世絵２・清長
吉原傾城新美人合自筆鏡・瀬川・松人	北尾政演	?	帯	更紗	大英博物館	大倍版錦絵画帖１帖	大英博物館・肉筆浮世絵名品展
傘さし行列	喜多川歌麿	?	帯	更紗	?	５枚続	ベルギー王立美術歴史博物館・アムステルダム国立美術館
刺身	喜多川歌麿	寛政年間	帯・前掛け	更紗	?	?	原色浮世絵大百科辞典第５巻・風俗
初夢見立	喜多川歌麿	?	帯	更紗	?	３枚続	ベルギー王立美術歴史博物館・アムステルダム国立美術館
寄樓遊君合鏡	喜多川歌麿	?	帯	更紗	?	１枚	ベルギー王立美術歴史博物館・アムステルダム国立美術館
大川端夕涼み	喜多川歌麿	寛政９～11年 頃（1797～1798）	帯	更紗	?	３枚続	原色浮世絵百科辞典・第７巻・清長ー歌麿
咲き分ケ冒葉の花・仇者	喜多川歌麿	?	帯	更紗	オーストリア工芸美術館	１枚	名品揃物浮世絵３・歌麿Ⅰ
武蔵野図	喜多川歌麿	?	帯	更紗	ギメ東洋美術館	３枚続	ギメ東洋美術館・パリ国立図書館
寄樓遊君合鏡・玉屋内春日野・歌浜	喜多川歌麿	?	帯	更紗	クリーブランド美術館	１枚	ミネアポリス美術館ポートランド美術館他，浮世絵名品百選展
二見ケ浦	喜多川歌麿	文化初年	帯	更紗	プラハ国立美術館	１枚	プラハ国立美術館所蔵浮世絵展
母と子・たかいたかい	喜多川歌麿()	?	帯	更紗	ベルギー王立美術歴史博物館	１枚	浮世絵とタピスリー
小松びき	喜多川歌麿	?	更紗の帯	更紗	新庄コレクション	?	新庄コレクション浮世絵図録
寄樓七小町・玉屋内・証し・うら次・しま野	喜多川歌麿	?	掛襟（?）	更紗	神奈川県立歴史博物館	１枚	丹波コレクション
四季遊花之色香・上下	喜多川歌麿	天明３年頃	帯	更紗	大英博物館	大判２枚続	大英博物館所蔵浮世絵名作展
婦人相学十躰・髪すき	喜多川歌麿	?	浴衣	更紗	大英博物館	１枚	名品揃物浮世絵３・歌麿Ⅰ，浮世絵聚花大英博物館
咲き分ケ冒葉の花・おちやつぴい	喜多川歌麿	?	帯	更紗	東京国立博物館	１枚	名品揃物浮世絵３・歌麿Ⅰ
針仕事	喜多川歌麿	?	帯	更紗	東京国立博物館，大英博物館	３枚続	浮世絵・旧松方コレクションを中心として，名品揃物浮世絵３・歌麿Ⅰ
美人花見の図	喜多川月麿()	?	間着	更紗	太田記念美術館	１幅	肉筆浮世絵・太田記念美術館所蔵・別冊古美術６
竹林三美人	窟俊満	天明末～寛政 初（1781～1801）	小袖	更紗	MOA美術館	１幅	原色浮世絵百科辞典・第７巻・清長ー歌麿
六玉川・調布	窟俊満	?	帯	更紗	ギメ美術館，ネルソン美術館	１枚	名品揃物浮世絵２・清長
六玉川・野路（萩の玉川）	窟俊満	天明末頃（1781～1789）	帯	更紗	ギメ美術館，ミネアポリス美術館，グラブホーン・コレクション	１枚	名品揃物浮世絵２・清長
冒梅二美人	窟俊満()	?	帯	更紗	太田記念美術館	１幅	太田記念美術館所蔵肉筆浮世絵・別冊古美術６
二美人遊歩の図	窟俊満()	?	帯	更紗	太田記念美術館	１幅	太田記念美術館所蔵肉筆浮世絵・別冊古美術６
逢妓八契・宮ケ岡の時雨	溪斎英泉	?	帯	更紗	神奈川県立歴史博物館	１枚	丹波コレクション
吉野丸舟遊び	鳥文斎栄之	?	振袖	更紗	ベルギー王立美術歴史博物館	５枚続	ベルギー王立美術歴史博物館・アムステルダム国立美術館
真崎の渡し	鳥文斎栄之	?	振袖	更紗	ベルギー王立美術歴史博物館	３枚	ベルギー王立美術歴史博物館・アムステルダム国立美術館
風流源氏若紫	鳥文斎栄之	?	帯	更紗	ベルギー王立美術歴史博物館	３枚組の内の２枚	ベルギー王立美術歴史博物館・アムステルダム国立美術館

作品名称	作者名	制作年代	服飾の種別	名物裂の種類	所蔵者	員数	掲載書
虫籠を持つ美人	月岡雪鼎	?	帯	更紗	?	1幅	原色浮世絵百科辞典・第6巻・師宜一春信
見立桃園三傑図	鈴斎北馬	天保(1830～44)	小袖	更紗	東京国立博物館	1幅	肉筆浮世絵大観2東京国立博物館2
花下二人の芸者	鳥居清長	天明2・3年(1782～1783)	帯	更紗	?	1枚	原色浮世絵百科辞典・第7巻・清長一歌麿
風俗東之錦・武家姫君(幼児)の外出	鳥居清長	?	帯	更紗	?	1枚	名品揃物浮世絵2・清長
四季八景・仲夏夜雨	鳥居清長	安永末期	帯	更紗	オランダ国立ライデン民族学博物館	1枚	オランダ国立民族学博物館シーボルト・コレクション・秘蔵浮世絵I
不忍弁天詣	鳥居清長	?	帯	更紗	ギメ美術館	3枚続	ギメ東洋美術館・パリ国立図書館(小学館)
当世遊里美人合・橘中奴	鳥居清長	?	帯	更紗	グラブホーン・コレクション	1枚	名品揃物浮世絵2・清長,浮世絵聚花ホノルル美術館
風俗東之錦・路上の武家姫女	鳥居清長	?	間道	更紗	シカゴ美術館・バッキンガム・コレクション	1枚	名品揃物浮世絵2・清長
色艶艶姫姿	鳥居清長	?	帯	更紗	フイッツウイリアム博物館	1枚	大英博物館(小学館)
四季八景・晩冬暮雪	鳥居清長	安永末期	炬燵布団	更紗	プラハ国立美術館	1枚	プラハ国立美術館所蔵浮世絵展
隅田川渡し舟	鳥居清長	?	振袖	更紗	ホノルル美術館	3枚続	美人画・Edo Beauties in Ukiyoe-e
江戸名所集・富ヶ谷	鳥居清長	?	帯	更紗	ホノルル美術館	3枚続	美人画・Edo Beauties in Ukiyoe-e
四季八景・長夏夕照	鳥居清長	?	帯	更紗	ホノルル美術館	3枚続	美人画・Edo Beauties in Ukiyoe-e
美南見十二候・七月夜の送り	鳥居清長	?	帯	更紗	ホノルル美術館	2枚続のうち左半分	原色浮世絵百科辞典・第7巻・清長一歌麿
藤下の女(風に悩む美人)	鳥居清長	安永九年頃(1780)～天明二年頃(1782)	間道	更紗	慶応義塾大学高橋誠一郎コレクション	1枚	日本美術全集第22巻・江戸庶民の絵画・風俗画と浮世絵,原色浮世絵百科辞典・第7巻・清長一歌麿
雪の朝	鳥居清長	天明6年頃(1786)	帯	更紗	高橋誠一郎氏,ベベール・コレクション	1枚	原色浮世絵百科辞典・第1巻　歴史,ベベール・コレクション浮世絵上巻
箱根七湯名所・どふが島	鳥居清長	?	帯	更紗	神奈川県立歴史博物館	1枚	名品揃物浮世絵2・清長
母と子	鳥居清長	天明頃	帯	更紗	大英博物館	柱絵1枚	大英博物館所蔵浮世絵名作展
出語り図・道行野辺の雪置	鳥居清長	?	小袖	更紗	東京国立博物館	1枚	名品揃物浮世絵2・清長
美南見十二候・八月月見の宴	鳥居清長	?	小袖	更紗		2枚続右のみ	UKIYOE FROM MATSUKATA COLLECTION
三代目沢村宗十郎の治兵衛と四代目岩井半四郎の小春	鳥居清長	天明4年頃(1784)	小袖	更紗	東京国立博物館,日本浮世絵博物館	1枚	原色浮世絵百科辞典・第7巻・清長一歌麿
げい志やお松実ハ阿こや・尾上松助	鳥居清長	安永8年正月森田座上演	下着	更紗	平木浮世絵美術館	1枚	浮世絵名品百選展
青楼四季之眺・江戸丁一町目・扇屋内華妻	鳥居清満	?	間道	更紗	神奈川県立歴史博物館	1枚	丹波コレクション
春の野遊図	西川祐信()	?	帯	更紗	ニューオータニ美術館	2幅	大谷コレクション肉筆浮世絵｜大谷孝吉蔵幻の浮世絵美人たち
柱時計と美人図	西川祐信	?	帯	更紗	東京国立博物館	1幅	浮世絵
遊女図	風柳山人時成()	?	間道	更紗	ニューオータニ美術館	1幅	大谷コレクション肉筆浮世絵｜大谷孝吉蔵幻の浮世絵美人たち
二美人図	水野ろ朝()	文化年間前半(1804)～18	間道	更紗	千葉市美術館	1幅	肉筆浮世絵大観10千葉市美術館
二美人図	山田敬之()	?	敷物	更紗	ニューオータニ美術館	1幅	大谷コレクション肉筆浮世絵｜大谷孝吉蔵幻の浮世絵美人たち
二美人遊歩図	柳々居辰斎	文化末～文政	帯	更紗	大英博物館	1幅	大英博物館・肉筆浮世絵名品展

名物裂の概念の成立と受容の実態

作品名称	作者名	制作年代	服飾の種別	名物裂の種類	所蔵者	員数	掲載書
桜下二美人図	弄春斎英江	寛政末～文化年間（1789～1801）	間着	更紗	東京国立博物館	1幅	肉筆浮世絵大観2東京国立博物館2
雛形若菜初模様・旭丸屋はやま	磯田湖龍斎	?	帯	更紗	東京国立博物館	1枚	浮世絵・旧松方コレクションを中心として
東方之美人之図	北尾重政	?	下着・小袖	更紗・角倉金襴	ホノルル美術館	1枚	美人画・Edo Beauties in Ukiyoe-e
豊国豊広両画十二候・三月	歌川豊広	?	更紗の間着・剣先緞子の帯	更紗・剣先緞子	太田記念美術館，大英博物館	大判三枚	歌川豊春とその時代，浮世絵聚花大英博物館
東西南北之美人・北方の美人・まつばや松島・丁子屋丁山	北尾重政	?	間着・帯	更紗・剣先緞子	ホノルル美術館	1枚	名品揃物浮世絵2・清長
美南見十二候・夏の宴（品川の夏）	鳥居清長	?	帯	更紗・有栖川錦	東京国立博物館	2枚続右のみ	UKIYOE FROM MATSUKATA COLLECTION
当世艶風十形図・かつさや	北尾政演	?	帯	更紗・蜀江錦	東京国立博物館	1枚	浮世絵・旧松方コレクションを中心として
扇屋内遊橋・梯立・花染・田みの・花人	菊川英山	?	帯・袱	宝尽・蜀江錦・登珠緞子	プラハ国立美術館	5枚続	プラハ国立美術館所蔵浮世絵展
風流江戸八景・浅草寺ノ暮雪	磯田湖龍斎	?	帯	三崩し	シカゴ美術館・バッキンガム・コレクション	1枚	名品揃物浮世絵1・春信
今様五節句戯・孟春	磯田湖龍斎（）	?	小袖	三崩し	神奈川県立歴史博物館	1枚	丹波コレクション
江戸名所百人美女・三田聖坂	歌川豊国	安政4年	打掛	三崩し	高橋博信氏	?	特別展歌川国貞・幻のコレクション－「浄瑠璃づくし」と「百人美女」北海道立帯広美術館
意戯雪あそび	歌川広重（）	?	どてら	三崩し・宝尽	ベルギー王立美術歴史博物館	3枚続	浮世絵とタピスリー
風流春小原女	菊川英山	文化後期（1804～1818）	帯	三崩し・宝尽	?	2枚続	原色浮世絵百科辞典・第八巻・写楽－北斎
楊子をくわえる芸者・三味線の	歌川国安	文化末頃か?	小袖	大内菱	オランダ国立ライデン民族学博物館	1枚	オランダ国立民族学博物館シーボルト・コレクション・秘蔵浮世絵Ⅰ
六玉川・紀伊国名所・高野の玉川	鈴木春信	?	帯	菱繋	神戸市立博物館	1枚	名品揃物浮世絵1・春信
風流五色盥・長水	鈴木春信	?	帯	菱繋	東京国立博物館	1枚	名品揃物浮世絵1・春信
今様見立士農工商・職人	歌川国貞（三代歌川豊国）（）	?	帯	宝尽	静嘉堂文庫	3枚続	歌川国貞
月の影忍逢う夜	歌川国貞（香蝶楼）	天保年間	前掛け	宝尽	個人蔵	1枚	KUNISADA'S WORLD，秘蔵浮世絵Ⅱ（オランダ国立ライデン民族学博物館シーボルト・コレクション）
新板錦絵当世美人合・曙山きどり	歌川国貞（五渡亭）	?	帯	宝尽	Rijksmuseum vor Volkenkunde,Leiden, Jan Cock Blomhoff Collection./オランダ国立ライデン民族博物館シーボルトコレクション，静嘉堂文庫	?	KUNISADA'S WORLD，秘蔵浮世絵Ⅱ（オランダ国立ライデン民族学博物館シーボルト・コレクション）
一歩線香即席噺・三笑亭可楽	歌川国貞（五渡亭）	文政頃	小袖	宝尽	?	1枚	原色浮世絵大百科辞典・第5巻・風俗
深川新地の月下三美人	歌川国貞（五渡亭）	天保3年	帯	宝尽	?	三枚続き	浮世絵三昧－国貞と英泉－
当り年名代駄文・秋狂言のさかへ	歌川国貞（五渡亭）	?	小袖	宝尽	オランダ国立ライデン民族学博物館	1枚	オランダ国立民族学博物館シーボルト・コレクション・秘蔵浮世絵Ⅱ
新板浮絵深川八幡宮之図	歌川貞秀（）	?	小袖	宝尽	ベルギー王立美術歴史博物館	1枚	浮世絵とタピスリー
女湯二美人図	歌川豊国	?	浴衣	宝尽	ホノルル美術館	1枚	美人画・Edo Beauties in Ukiyoe-e
江戸名所百人美女・三囲	歌川豊国	安政4年	帯	宝尽	高橋博信氏	?	特別展歌川国貞・幻のコレクション－「浄瑠璃づくし」と「百人美女」北海道立帯広美術館
江戸名所百人美女王子稲荷	歌川豊国	安政4年	半襟	宝尽	高橋博信氏	?	特別展歌川国貞・幻のコレクション－「浄瑠璃づくし」と「百人美女」北海道立帯広美術館

作品名称	作者名	制作年代	服飾の種別	名物裂の種類	所蔵者	員数	掲載書
江戸名所百人美女・成田山旅宿	歌川豊国	安政４年	間着	宝尽	高橋博信氏	?	特別展歌川国貞・幻のコレクション―「浄瑠璃づくし」と「百人美女」北海道立帯広美術館
江戸名所百人美女・赤さかの氷川	歌川豊国	安政４年	帯	宝尽	高橋博信氏	?	特別展歌川国貞・幻のコレクション―「浄瑠璃づくし」と「百人美女」北海道立帯広美術館
江戸名所百人美女・大川橋	歌川豊国	安政４年	帯	宝尽	高橋博信氏	?	特別展歌川国貞・幻のコレクション―「浄瑠璃づくし」と「百人美女」北海道立帯広美術館
江戸名所百人美女・鉄砲洲	歌川豊国	安政４年	小袖	宝尽	高橋博信氏	?	特別展歌川国貞・幻のコレクション―「浄瑠璃づくし」と「百人美女」北海道立帯広美術館
江戸名所百人美女・湯島天神	歌川豊国	安政４年	帯	宝尽	高橋博信氏	?	特別展歌川国貞・幻のコレクション―「浄瑠璃づくし」と「百人美女」北海道立帯広美術館
風流七小町略姿絵・あふむ小まち	歌川豊国	?	浴衣	宝尽	東京国立博物館，水田コレクション	１枚	名品揃物浮世絵６・豊国・国貞，水田コレクション図録
内と外姿八景・田甫の落雁・衣々晩鐘	歌川広重	?	夜着?	宝尽	オランダ国立ライデン民族学博物館	１枚	オランダ国立民族学博物館シーボルト・コレクション・秘蔵浮世絵Ⅰ
東都名所図会・隅田川渡しの図	歌川広重 ()	?	小袖	宝尽	ベルギー王立美術歴史博物館	３枚続	浮世絵とタピスリー
上野不忍の池雪の景	歌川広重	?	紐	宝尽	新庄コレクション	三枚	新庄コレクション浮世絵図録
両国橋納涼船之図	栄松斎長喜(子興)	?	浴衣 (?)	宝尽	ホノルル美術館	３枚	
忠臣蔵八段目	勝川春英	?	帯	宝尽	?	１枚	原色浮世絵百科辞典・第八巻・写楽―北斎
反物を持つ娘	勝川春扇	文化年間初期	帯	宝尽	プラハ国立美術館	１枚	プラハ国立美術館所蔵浮世絵展
浅草寺	勝川春山	?	帯	宝尽	新庄コレクション	三枚	新庄コレクション浮世絵図録
萩の庭	勝川春潮	?	帯	宝尽	?	?	浮世絵百科・風俗
王子	葛飾北斎	?	帯	宝尽	ホノルル美術館	１枚	美人画・Edo Beauties in Ukiyoe-e
春秋美人図	葛飾北斎 ()	?	帯	宝尽	出光美術館	２幅	艶と粋―肉筆浮世絵展
風流美人合・長煙管	菊川英山	?	複模様の小袖	宝尽	たばこと塩の博物館	１枚	名品揃物浮世絵７・国貞・栄泉
水かがみ	菊川英山	?	帯	宝尽	新庄コレクション	?	新庄コレクション浮世絵図録
風流雪の遊	菊川英山	?	複模様の小袖	宝尽	新庄コレクション・東京国立博物館	３枚続	新庄コレクション浮世絵図録・UKIYOE FROM MATSUKATA COLLECTION
虫籠	喜多川歌麿	?	背景	宝尽	ギメ東洋美術館	１枚	ギメ東洋美術館・パリ国立図書館
難波屋きたと高しまひさの腕相撲	喜多川歌麿	寛政年間	帯	宝尽	プラハ国立美術館	１枚	プラハ国立美術館所蔵浮世絵展
六玉川・丁子屋内雛鶴・つるの	喜多川歌麿	?	帯	宝尽	ベルギー王立美術歴史博物館	１枚	名品揃物浮世絵３・歌麿Ⅰ
忠臣蔵五段目	喜多川歌麿	?	財布	宝尽	新庄コレクション，フォッグ美術館	１枚	新庄コレクション浮世絵図録，浮世絵聚花フォッグ美術館・ネルソン美術館
見立六歌仙	喜多川歌麿	寛政初期	帯	宝尽	大英博物館	大判２枚続	大英博物館所蔵
錦織歌麿形新模様・白うちかけ	喜多川歌麿	寛政９年頃	小袖	宝尽	大英博物館，ベルリン東洋美術館	１枚	大英博物館所蔵浮世絵名作展，浮世絵聚花ベルリン東洋美術館・リートベルク美術館
台所美人	喜多川歌麿	?	浴衣	宝尽	東京国立博物館	２枚続	浮世絵・旧松方コレクションを中心として
風俗三段娘・中品之図	喜多川歌麿	寛政頃	浴衣	宝尽	東京国立博物館	１枚	名品揃物浮世絵３・歌麿Ⅰ
年始回礼の遊女と禿図	窪俊満	寛政～文化	帯	宝尽	大英博物館	１幅	大英博物館・肉筆浮世絵名品展

作品名称	作者名	制作年代	服飾の種別	名物裂の種類	所蔵者	員数	掲載書
七草	窟俊満	?	帯	宝尽	東京国立博物館	1枚	UKIYOE FROM MATSUKATA COLLECTION
吉原美人・八瀬のしのぶ・屈屋内朝妻	溪斎英泉	天保6年	小袖	宝尽	?	?	浮世絵三昧ー国貞と英泉ー
契情道中双□(ろく)・見立よしはら五十三つい・佐野松屋内・桂木・坂の下	溪斎英泉	?	小袖	宝尽	オランダ国立ライデン民族学博物館	1枚	オランダ国立民族学博物館シーボルト・コレクション・秘蔵浮世絵Ⅱ
四季美人図	鳥文斎栄之	寛政〜文化	帯	宝尽	ASIAN ART MUSEUM OF SAN FRANCISCO,THE AVERY BRUNDAGE COLLECTION.	3幅	UKIYO-E PAINTINGS
美人花顔集・高島	鳥文斎栄之	?	帯	宝尽	ギメ東洋美術館	1枚	ギメ東洋美術館・パリ国立図書館
青楼美人六花仙・角玉屋小紫	鳥文斎栄之	?	間着	宝尽	シカゴ美術館・バッキンガム・コレクション	1枚	名品掛物浮世絵3・歌麿Ⅰ
若那初衣裳・わかなや内しら露	鳥文斎栄之	寛政後期	帯	宝尽	ヴィンツイガーコレクション	1枚	ヴィンツイガーコレクション浮世絵名品展
青楼美人六花仙・松葉や若那	鳥文斎栄之	寛政6〜7年頃	帯	宝尽	大英博物館	1枚	大英博物館所蔵浮世絵名作展，浮世絵聚花大英博物館
三世瀬川菊之丞の傾城かつらぎ・三世沢村宗十郎の名古屋山三	東州斎写楽	?	小袖	宝尽	東京国立博物館，ギメ美術館	1枚	浮世絵・旧松方コレクションを中心として
江戸名所百人美女・阿寿かやま	歌川豊国	安政4年	帯	宝尽もどき	高橋博信氏	?	特別展歌川国貞・幻のコレクションー「浄瑠璃づくし」と「百人美女」北海道立帯広美術館